

光が無意識に与える影響の研究
—小説『小人の冒険シリーズ』における空間描写の分析を通して—

指導教員 坂牛 卓

東京理科大学工学部第一部建築学科
坂牛研究室
4117059 清水海玖

Abstract

A STUDY OF THE UNCONSCIOUS EFFECTS OF LIGHT

Through the analysis of spatial depiction in the novel "The Borrowers "

Miku SHIMIZU

The purpose of this study is to clarify the unconscious effects of space and light on emotions. The unconscious effects of light were analyzed by the following 3 processes. 1. Extract the spatial depiction of light and classify them into several types. 2. Clarify the correspondence between the spatial depiction and emotional patterns. 3. Illustrate the correspondence between the results of 1 and 2. As a result, following 3 tendencies were discovered. 1. when someone takes action, light is described as a material object. 2. When light represents a place, it has a motivational effect. 3. When light corresponds with other objects, the scene becomes more attractive.

目次

梗概	p.007
第1章 序	p.011
1.1. 研究の背景と目的	
1.2. 既往研究	
1.3. 分析対象	
1.4. 研究方法	
第2章 光の類型化	p.029
2.1. 分析方法	
2.2. 光の存在の仕方（分析結果）	
2.3. 光の形（分析結果）	
第3章 舞台空間と心情パターン	p.023
3.1. 分析方法	
3.2. 舞台空間と心情パターン（分析結果）	
3.3. 舞台空間の空間特性（分析結果）	
第4章 空間特性と光が心情に与える影響	p.035
4.1. 分析方法	
4.2. 分析結果	
4.5. 小結	
第5章 結	p.043
5.1. 結論	
5.2. 今後の課題	
5.3. 分析結果	
参考文献・引用文献	p.045
謝辞	p.047
資料編	p.049

梗概

光が無意識に与える影響の研究
—小説『小人の冒険シリーズ』における空間描写の分析を通して—

坂牛研究室 4117059 清水 海玖

1. 研究の背景と目的

読書の記憶はその後の個々人の人生を支える原風景となるものであり、そうした原風景は豊かな情景描写と心情描写によって表現される^(註1)。そして小説家が設計意図をもたない自然や建築的事象に付与する意味は、無意識に共有される空間に対するイメージを言語化したものだ^(註2)と捉えることができる。

そこで本論では自然や明るさに強い関心をもつ主人公が登場する岩波少年文庫『小人の冒険シリーズ』（メアリー・ノートン作/林容吉訳）の空間描写を研究対象とすることで、自然や人間が無意識に生み出す空間と光が心情に与える影響の一端を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象

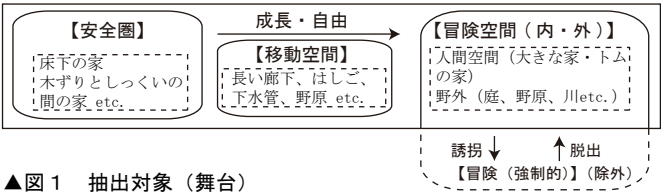
前述した『小人の冒険シリーズ』から『床下の小人たち』、『野に出た小人たち』、『川をくだる小人たち』、『空をとぶ小人たち』の4作品を対象とする。本作品の特徴として、人間に侵されることのない床下という「安全圏」の喪失と、危険があっても戸外で生活したいという「冒険」への憧れの葛藤を通した主人公の成長が一つの主題として描かれていることが挙げられる。また、1. 安全圏と冒険をそれぞれ象徴する明暗の描写が多くみられること。2. 本作品が作者の草花や小動物への精密な観察眼と大胆な空想力から生まれた物語であること。3. 主人公が人間とは異なる視点をもつため植物やモノといったあらゆる要素が建築的事象として描かれることが特徴として挙げられることから前述した目的を達する上で有効だといえる。

抽出する場面は空間が心情に与える純粋な影響を考察するため、主人公たちの自発的な体験・行為・心情と共に描かれる舞台空間を対象としその特徴を分析する。対象作品で記述される舞台空間は物語の主題を考慮し、【安全圏】、【冒険空間（内・外）】^(註3)、両者の間に存在する【移動空間】に大別する。（図1）

3. 研究方法

以下3つの手順により研究を行う

- 1) 対象とした言説から光に関する空間描写を抽出し、光の存在の仕方、光の要素を抽出し、類型化を行う。分析例を表1に示す。
- 2) 前述した【安全圏】、【冒険空間（内・外）】、【移動空間】における心情描写を抽出し、心情パターンとして類型化する。次に舞台空間の空間特性と心情パターンの対応関係を明らかにする。抽出例を表3に示す。
- 3) 最後に1)の光の類型化と2)の空間特性における心情パターンの対応関係を図化することによって空間特性と光が心情に与える影響を明らかにする。



▲図1 抽出対象（舞台）

4. 光の要素（分析結果）

描写される光の存在の仕方やその具体的な形によって類型化を試みた。その結果、光は表1に示した分析例1のようにある場所の様子を説明する＜場を示す光＞、分析例2のようなモノとの関わりの中で光自身の存在も示す＜モノを示す光＞、最後に実体のあるものとしてモノのように表現される＜モノとしての光＞に存在の仕方を大別することができた。

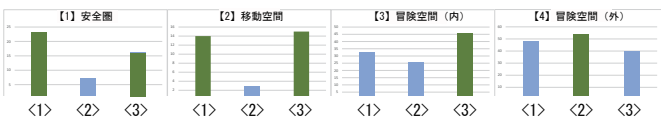
さらに、文脈を読みこむことにより具体的な形を＜離れた光＞、＜反射する光＞、＜上からの光＞など17個の光の要素として抽出した。表2に結果を示す。

▼表1

光の存在の仕方		＜光＞要素
光に関する空間描写	明暗を示すもの （分析例1）場を示す光：空間を表す語句を修飾するもの 「廊下のはずれが かがすかにく明くるく」> 明く< になっていました。	「はずれ」：距離を示す離れた光
	光源となるもの （分析例2）モノを示す光：物や人を修飾するもの ＜陽の光＞にくきらきら＜光る＞カナブン	「反射」によりモノが輝く反射する光
	（分析例3）モノとしての光：主語、あるいは体言となっているもの 白っぽい石にふりそそぐ春のく日の光> ちいさな金色のく太陽>がみつ暗闇のなかにうかんでいる	上からの光 光が照らしている順光

▼表2 光の要素（分析結果）

分類	抽出例	<1>	<2>	<3>	[1]	[2]	[3]	[4]	<1>場を示す光 <2>モノを示す光 <3>モノとしての光 [1] 安全圏 [2] 移動空間 [3] 冒険空間（内） [4] 冒険空間（外）
明るさ	陽に輝いた暗がり	39	3	6	12	6	18	12	
境界を生む光	（光・闇）の中へ（光・闇）の方へ	36	5	5	3	2	14	27	
被さる包む	かぶさるように包まれた	5	1	1	0	2	2	3	
離れた光	遠く光が見えまじった	12	0	6	5	5	5	3	
満ちる光	光が満ちていて	2	0	1	0	0	2	1	
反射	陽にかがやく（モノ）	7	25	9	6	5	3	27	
逆光	影が闇となるもの透かす・透る	1	17	4	1	0	9	12	
触れる	あたたかな（光）肌にあたる（光）	2	12	3	0	2	6	9	
輪郭を生む光	（光・闇）に輪郭がうかんでいました	0	6	6	0	2	5	5	
順光	光が闇となるもの	0	3	3	1	1	3	1	
下からの光	下の方から光が来ている	0	1	2	3	0	0	0	
すきま・穴の光	すきまから光がもれて	1	2	4	5	0	1	1	
細かい光	まだらな光の粒	0	3	6	0	0	6	3	
上からの光	射す・ふるそそぐ	1	4	13	1	0	12	5	
動く光	ちらちらと動く	4	3	14	4	5	5	7	
影	長く伸びた影 縞になった影	7	5	17	2	1	10	16	
その他	名詞として光や闇を示すもの 光源	1	1	16	2	0	5	11	



▲図2 舞台空間と光の存在の仕方の対応関係

5. 舞台空間と心情パターン（分析結果）

次に各舞台空間の空間特性と心情パターンの対応関係について検討する。心情パターンは物語の主題を踏まえ冒険を肯定する〔冒険志向〕、安全性を求める〔安全志向〕、両者の〔葛藤状態〕の3つに大別できた。表3に示す。

5.1 【安全圏】（床下、木ずりとしっくいの間）

暗さ、狭さが空間特性として挙げられる。戸外への脱出願望を訴える冒険への憧れ、床下への不満等の〔冒険志向〕と慣れ親しんだ生活への愛着、安心感などの〔安全志向〕という対立軸（＝〔葛藤状態〕）が読み取れる。

5.2 【移動空間】（廊下、野原、はしご、下水道）

【移動空間】は【安全圏】と【冒険空間】を繋ぐ役割を持つ。このうち廊下、はしご、下水道においては、暗さ、長さ、一方通行性が空間特性として挙げられ、これらが先にある冒険への期待という〔冒険志向〕を強めていると考えられる。

野原では、外に出た喜びと同時に先のみえない不安や疲労などの〔葛藤状態〕が読み取れる。空間特性として、野原のまわりを周回しながらも違う光景を体験する回遊性が挙げられる。

5.3 【冒険空間】（人間空間、野外、戸外生活空間）

冒険空間では安全圏を脱出したことに対する強い喜びが多く描写され〔冒険志向〕を強めている。空間特性は多様だが、強い明るさによって印象付けられるという点が共通している。人間空間や戸外での生活空間という室内空間と野原などの室外空間に大別できる。

以上の分析結果より、舞台空間の推移を通して心情パターンは〔安全志向〕から〔冒険志向〕へと後押しされてされているといえる。

▼表3 舞台空間と心情描写の抽出例

	【安全圏】	【移動空間】	【冒険空間】
安全志向	どっと安心する気もちつまり、隠れ場所に安全にいたいときに感じる自然なよこご		
葛藤状態	こういうもの（いつも見なれたじぶんのもの）を失いたくないという思い	野原のひろさ（中略）は、おそれと敬いの念をおこさせました。	
冒険志向	いやだ。こんなふうに、いつまでも、（中略）暗いところで、床下で	廊下をすすんでいくにつれて、心臓がどきどきしてきました。	「どんな困難があっても、やつぱりきてよかったわ！」
空間特性	【暗さ】、【狭さ】	【一方通行性】、【回遊性】	【明るさ】、【広がり】

冒険志向へ

6. 空間特性と光が心情に与える影響（分析結果）

分析結果を表4に示す。各光の要素および舞台空間は表2の数値と図2に示した舞台空間と光の存在の仕方の対応関係をもとにプロットしている。

6.1 <場としての光>

【安全圏】、【移動空間】に多くみられる。主に暗さを説明する<明るさを示す光>、<離れた光>、<境界としての光>が先にある【冒険空間】を漠然と予感させることで〔冒険志向〕を高めている。

6.2 <モノを示す光>

【冒険空間（外）】に多くみられる。<影>やあらゆるモノに<反射>する光などによって、モノと光の存在を同時に認知し新たな発見もたらすことで【冒険空間】の魅力が確かなものとされている。

6.3 <モノとしての光>

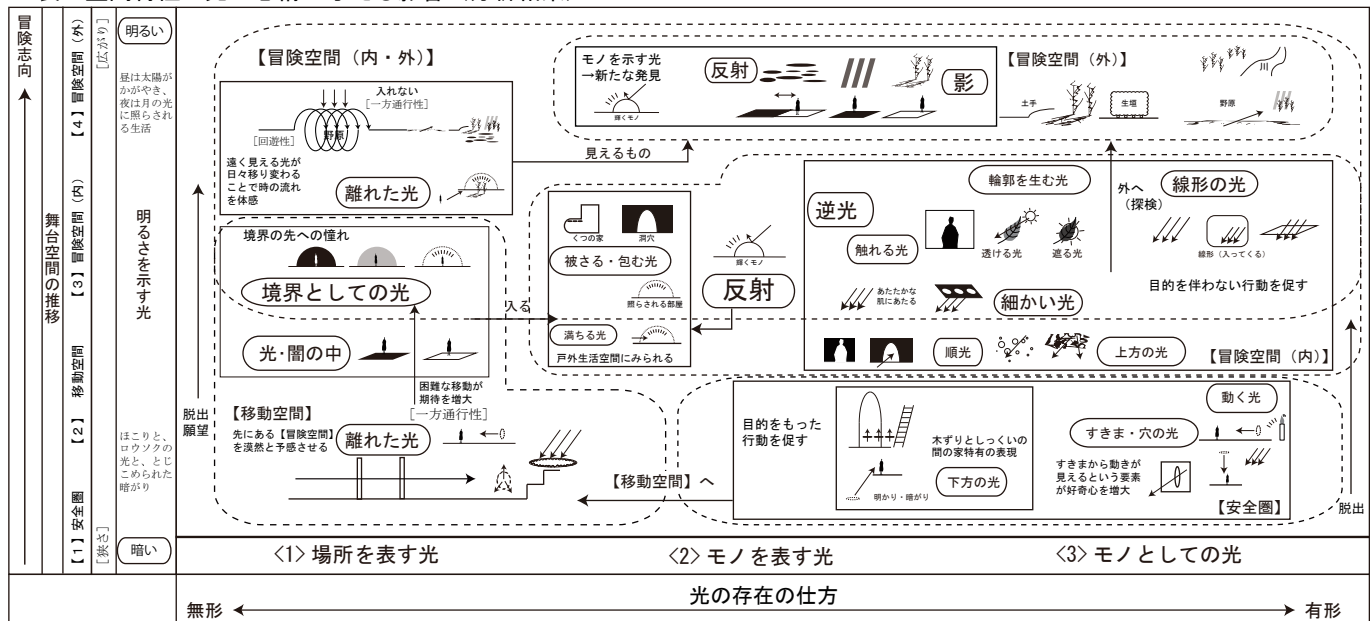
【安全圏】、【移動空間】、【冒険空間（内）】に多くみられる。<逆光>などの要因により<輪郭>を持つ光は、登場人物の好奇心を駆り立てる傾向がある。<すきま・穴>から来る単体の光は目的をもった行動を促し、<細かく><上からくる>光は目的を伴わない行動を促す傾向がみられた。

7. 結論

以上、本研究では『小人の冒険シリーズ』に登場する光に関する描写を抽出し、舞台空間の特性と登場人物の心情パターンと合わせて分析を行うことで光が無意識に与える影響を考察した。その結果、多様な光のイメージを類型化することができた。そして、光は①人が挑戦的な行動へと踏み切る場合は形のあるものとして、②挑戦的な心情になるときは場所を表すものとして、③新たな物事に対する魅力を高めるときにはモノとの関わりによって描写されることが多いという傾向を得ることができた。

- 脚注： 註1）岩波少年文庫五十年一版の発足に際してより
「幼少期の読書の記憶の断片は、個個人のその後の人生のさまざまな局面で、あるときは勇気と励ましを与え、またあるときは孤独への慰めともなり、意識の深層に蔵され、原風景として消えることがない」
註2）猪熊英子『床下の小人たち』（岩波少年文庫）解説より
註3）【冒険空間】において人間に拉致されたなど強制的な要因が働く場合は前述の理由より対象から除いている。
- 引用文献：1）メアリー・ノートン作/林容吉訳『床下の小人たち』（1956）、『野に出た小人たち』（1976）、『川をくぐる小人たち』（1976）、『空をとぶ小人たち』岩波少年文庫
- 参考文献：1）安藤聡 ファンタジーと歴史的危機—英国児童文学の黄金時代 彩流社（2003）
2）香山壽夫 『建築意匠講義』東京大学出版会（1996）

▼表4 空間特性と光が心情に与える影響（分析結果）



第1章

序

1.1. 研究の背景と目的

『岩波少年文庫創刊五十周年—新版の発足に際して』の中で以下のように述べられている。

「幼少期の読書の記憶の断片は、個個人のその後の人生のさまざまな局面で、あるときは勇気と励ましを与え、またあるときは孤独への慰めともなり、意識の深層に蔵され、原風景として消えることがない。」¹

このように、読書の記憶がもたらす原風景はときに現実世界を凌ぐほどの影響力を持ち、こうした原風景は豊かな情景描写と心情描写によって表現される。そして、小説家が設計意図をもたない自然や建築的事象に付与する意味は、無意識に共有される空間に対するイメージを言語化したものだといえることができる。しかし、その具体的イメージと心理作用は十分明らかになったとは言えない。そこで本論は、小説が「人々の原風景を形作るもの」、あるいは「人々に共有される原風景を反映したもの」だととらえ、こうした人々の心情に訴えかける原風景を分析することで社会的に共有される空間に対するイメージの一端を明らかにしながら、建築空間造を形成するための新たな知見を得ることを目指している。

具体的には、建築を創るうえで「建築家は光を用いて形をつくる」²と言われるほど重要視される「光」に着目し、自然や明るさに強い関心をもつ主人公が登場する岩波少年文庫『小人の冒険シリーズ』（メアリー・ノートン作 / 林容吉訳）³の空間描写を研究対象とすることで、自然や人間が無意識に生み出す空間と光が心情に与える影響の一端を明らかにする。

1 『岩波少年文庫創刊五十周年—新版の発足に際して』（2000.6）より

2 参考文献 1 p.66

3 引用文献 1 から 4 の総称

1.2. 既往研究

純文学を研究対象に設計手法を探る代表的な既往研究には、夏目漱石の長編小説を対象にして舞台となる建築空間の意味を探るもの⁴、芥川賞受賞作品群から自然景観イメージとその変遷を探るもの⁵などがある。前者は、建築が人間の精神に与える文化的な「意味」を描写される舞台空間の文量から分析を試みているが、ストーリーを時間的に追ってはいなく各舞台と心情との結びつけまでは行われていない。後者は、心象風景としての景観イメージを把握するため、その景観要素の書かれた場面やそれに託された意味を解釈している点で本論と類似するが、分析対象を自然景観のみにしている点でミクロな視点から空間イメージを捉えようとする本論とは異なる。

一方、純文学以外の言説を対象としているものには日本昔話から建築の境界のイメージを明らかにする研究⁶がある。これは、建築の境界を介した登場人物の行為の描写を分析したものだが、境界が登場人物にもたらす心理作用までは言及されていない。

また、本論のように児童文学を研究対象とした既往研究はない。前述のように幼少期の読書の記憶こそが個個人の原風景となるのであれば、対象が児童文学の名作だからこそ得られる知見があるのではないかと考えた。このような背景から、児童文学作品を分析対象とすることで光のイメージの解明を試みる。

4 若山 滋 ほか2名 『夏目漱石の長編小説の舞台となる建築空間の「意味」』 日本建築学会計画系論文集 No.478, pp.131-139, 1995.12

5 池田 朋子 ほか1名 『1970-94年の芥川賞受賞作品群にみる自然景観イメージとその変遷』 日本建築学科計画系論文集 No.494, pp.161-168, 1997.4

6 廣瀬 雄士郎 ほか1名 『日本昔話における建築の境界のイメージ』 日本建築学会学術講演梗概集 2008.8

1.3.1 分析対象

前述した『小人の冒険シリーズ』から『床下の小人たち』⁷、『野に出た小人たち』⁸、『川をくだる小人たち』⁹、『空をとぶ小人たち』¹⁰の4作品（図1.1）を対象とする。このうち、『床下の小人たち』は、その年に出た子どもの本のなかでいちばんよい本として、イギリスの図書館協会からカーネギー賞を与えられた世界の児童文学の古典的名作の一つであり¹¹、十分な普遍性を持ち合わせた作品である。

本作品の特徴として、主人公アリエッティが、人間に侵されることのない床下という両親に守られた「安全圏」から脱出し、戸外で「冒険」をしたいという強い願望をもっていることが挙げられる。主人公らはイングランド的伝統を象徴する小人であるが、魔力などはもたない人間としての意思や目的をもった存在として扱われ、大きさの違いのみが生じさせる世界の見え方や感じ方の違いが描き出されている¹²。

文学的な視点では、本作品は主人公の成長の物語として捉えられ、移り変わる時代の中での伝統の衰退を描くと同時にその時代への対応を模索している作品だとされている。このことは、主人公アリエッティと両親の関係性、そして「安全圏」と脱出した先の外の世界（以下冒険空間）によって喻えられている。具体的には、主人公は自分の安全圏に「閉じ込められている」境遇から脱出し成長することで全面的な指導者としての両親と安全圏を喪失するが、その代償として別に新たな意味を持つ両親との関係を獲得するのである¹³。このように物語の中で重要な役割を果たす冒険空間は、暗い安全圏と対比がなされる「明るさ」で印象付けられるとともに作者の地面の草花や小動物への精密な観察眼と旺盛な空想力によって描かれている¹⁴。

上記の作品背景により、以下の三つの理由を根拠に本作品を分析することは前述の本論の目的を達成する上で有効だと考える。

1. 安全圏と冒険をそれぞれ象徴する明暗の描写が多くみられること。
2. 本作品が作者の地面の草花や小動物への精密な観察眼と大胆な空想力から生まれた物語であること。
3. 主人公が人間とは異なる視点をもつため植物やモノといったあらゆる要素が建築的事象として描かれること。

7 引用文献1

8 引用文献2

9 引用文献3

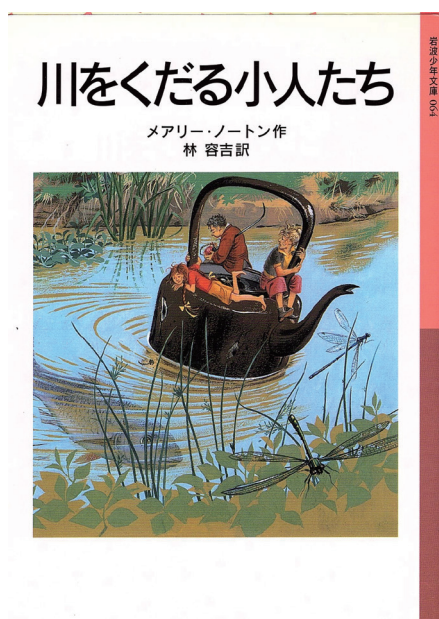
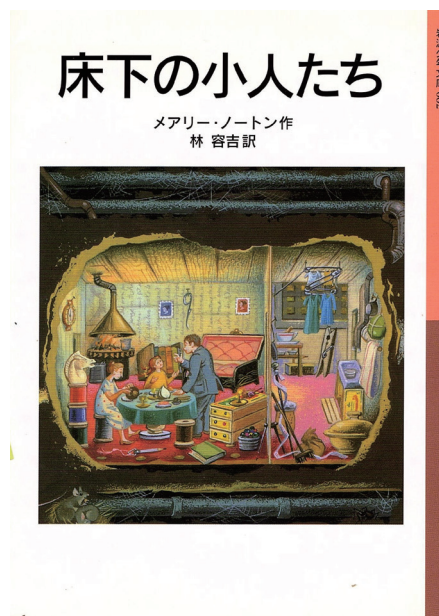
10 引用文献4

11 林 容吉 引用文献1 『訳者のことば』より

12 信岡 朝子 『メアリー・ノートン『床下の小人たち』シリーズに見る自然への憧憬 - ジブリ映画『借りぐらしのアリエッティ』との比較から -』 東洋大学人間学科総合研究紀要 No.15、2013

13 参考文献2 p.157, 160-170

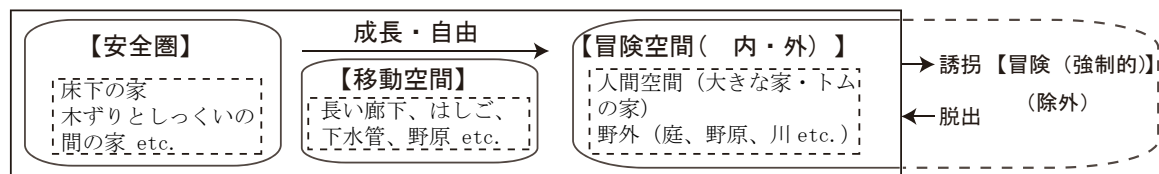
14 猪熊葉子 引用文献1 『解説』p.269



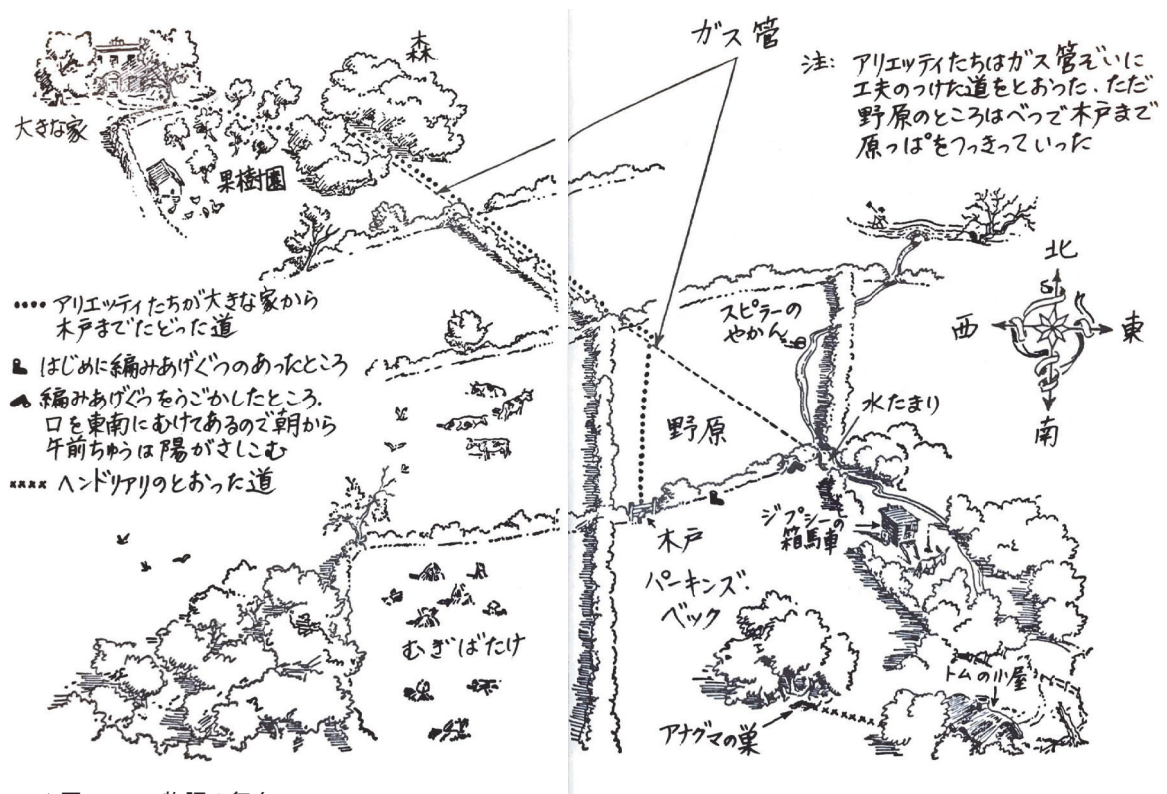
▲図 1. 1

1.3.2. 分析対象（抽出する言説）

抽出する言説は空間が心情に与える純粋な影響を考察するため、主人公たちの自発的な体験・行為・心情と共に描かれる舞台空間における記述とする。すなわち、誘拐などの強制的な要因によって展開される舞台空間（ほろ馬車、屋根裏部屋）は含んでいない。対象作品で記述される舞台空間は物語の主題を考慮し、人間に侵されることのない両親に守られた【安全圏】（床下の家、木ずりとしっくい間の家 etc.）、安全圏を脱出した先になる外の世界【冒険空間（内・外）】、（お屋敷、トムの家、くつ、庭、野外（川、空、むぎばたけ etc.）、模型の村）安全圏と冒険空間を繋げる役割をもつ【移動空間】（廊下、はしご、下水、野原）に大別した。（図1.2）（図1.3）



▲図1.2 抽出する舞台



▲図1.3 物語の舞台

1.4. 研究方法

以下3つの手順により研究を行う

- 1) 前述した【安全圏】、【冒険空間（内・外）】、【移動空間】におけるおける言説から光に関する語句を含む文章を抽出し、光の存在の仕方、光の形を抽出し、類型化を行う。
- 2) 前述した【安全圏】、【冒険空間（内・外）】、【移動空間】における心情描写を抽出し、心情パターンとして類型化する。次に舞台空間の空間特性と心情パターンの対応関係を明らかにする。
- 3) 最後に1)の光の類型化と2)の空間特性における心情パターンの対応関係を合わせて図化することによって空間特性と光が心情に与える影響を明らかにする。

第2章

光の類型化

2.1. 分析方法

対象とした舞台空間における言説から、語句の単位で光に関する表現を抽出する。光に関する表現とは、明るくて、暗い、かがやいてなど明暗や光の様子示すものと陽の光、太陽、空、ロウソクの光など物語中で光源としての機能を果たしているものを指すこととする。表 2.1 に光に関する表現として抽出した 65 項目の語句を示す。

次に抽出した光に関する表現を含む文章ごとに「光の存在の仕方」と「光の形」という二つの視点から光のイメージの類型化を試みる。

▼表 2.1

明暗や光の様子を示す語句	光源として働く語句
あかり、明るい、明るく、明るさ、明暗 暗い、暗がり、暗くて、暗すぎて、暗闇、まっくら うすあかり、うすぐらい、うすくらがり、うすぐらく、うすぼんやりと うらかな、晴れ渡った、赤々と かがやいて、かがやいている、かがやき、かがやく 照られる、照らだされて、照られて、照りました 光、光って、光っている、光る、光線 きらきら、きらめき、反射	日、月、火、星、空、太陽、お日さま 陽、陽の光 日ざし、日なた、日の光、日没 朝日、青空、西日、夕暮れ、夜空、夜明け 月あかり、月の光、月光 闇、影、影法師 ランプ、ガス灯、暖炉、ロウソク、ロウソクの光

2.2.1. 光の存在の仕方（分析結果）

光の存在の仕方とは光が何によって人に認知されているかを示す指標である。これは、表2.1でしめした光に関する表現が文中でどのような役割を担っているかによっているかにより、＜場を示す光＞、＜モノを示す光＞、＜モノとしての光＞に大別することができた。表2.2に示すように＜場を示す光＞は光に関する表現が特定あるいは漠然とした場所を表す、あるいは修飾しているもの、＜モノを示す光＞は光に関する表現が物あるいは人を修飾しているもの、＜モノとしての光＞は、光に関する表現が文中で主語、あるいは体言として働いているものを指す。

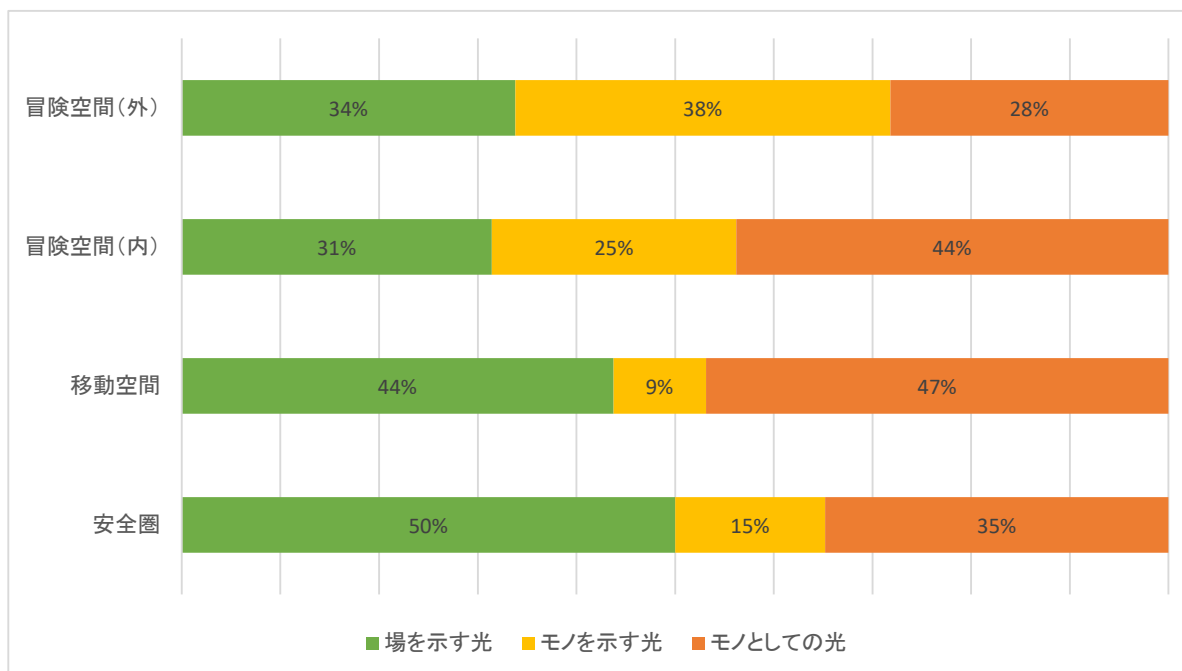
▼表2.2 分析例

場を示す光：光に関する表現が空間を表す語句を修飾または空間を表すもの (分析例) <u>廊下のはずれ</u> が、かすかに＜明るく＞なっていました
モノを示す光：光に関する表現が空間を表す語句を修飾するもの (分析例) ＜陽の光＞に＜きらきら＞＜光る＞ <u>カナブン</u>
モノとしての光：光に関する表現が主語、あるいは体言となっているもの (分析例) 白っぽい石にふりそそぐ春の＜日の光＞ ちいさな金色の＜太陽＞がみつつ暗闇のなかにうかんでいる

2.2.2. 舞台空間と光の存在の仕方(分析結果)

各舞台空間がもつ意味や空間特性の差が、光の認識の仕方にどのような影響をもたらすか調べるため、＜場を示す光＞、＜モノを示す光＞、＜モノとしての光＞の割合を舞台空間ごとに算出したところ以下のような傾向を得ることができた。(図2.1)

1. 場を示す光は安全圏と移動空間において認識されやすい。
2. モノを示す光は冒険空間（外）においてよく認識されているが、移動空間、安全圏においては認識されにくい。
3. モノとしての光は、移動空間・冒険空間（内）にて認識されやすいが、冒険空間（外）では他の三者に比べ認識されにくい。



▲図2.1 舞台空間と光の存在の仕方

2.3.1. 光の形（分析結果1）

光の形とは視覚として光がどのような形態をもったものとして人に認知されているかを示す指標である。漠然とした光のイメージを形として類型化するために、文脈から光に関する表現が物語中で存在する場所、光の周りにあるもの、主人公が光を認知したきっかけなどを読み取ることにより図と言葉で光のイメージを挙げていった。これを、KJ法により似た表現のものをまとめ見出しを付けて整理した。その結果、光の形として表2.3の17個の要素として光の形を類型化することができた。あわせて各光の形が描写される舞台空間とその存在の仕方を表に示す。

▼表2.3 光の形

分類	抽出例	<1>	<2>	<3>	【1】	【2】	【3】	【4】	<1> 場を示す光 <2> モノを示す光 <3> モノとしての光 【1】 安全圏 【2】 移動空間 【3】 冒険空間（内） 【4】 冒険空間（外）
明るさ	陽に輝いた 暗がり	39	3	6	12	6	18	12	
境界を生む光	（光・闇）の中へ （光・闇）の方へ	36	5	5	3	2	14	27	
被さる包む	かぶさるように 包まれた	5	1	1	0	2	2	3	
離れた光	遠く光が見え ました	12	0	6	5	5	5	3	
満ちる光	光が満ちてい て	2	0	1	0	0	2	1	
反射	陽にかがや く（モノ）	7	25	9	6	5	3	27	
逆光	影が図となるもの 透かす・遮る	1	17	4	1	0	9	12	
触れる	あたたかな（光） 肌にあたる（光）	2	12	3	0	2	6	9	
輪郭を生む光	（光・闇）に輪郭が うかんでいました	0	6	6	0	2	5	5	
順光	光が図となる もの	0	3	3	1	1	3	1	
下からの光	下の方から光が 来ている	0	1	2	3	0	0	0	
すきま・穴の光	すきまから光が もれて	1	2	4	5	0	1	1	
細かい光	まだらな光 光の粒	0	3	6	0	0	6	3	
上からの光	射す・ふる そそぐ	1	4	13	1	0	12	5	
動く光	ちらちらと動く	4	3	14	4	5	5	7	
影	長く伸びた影 縞になった影	7	5	17	2	1	10	16	
その他	名詞として光や闇を 示すもの 光源	1	1	16	2	0	5	11	

2.3.2 光の形（分析結果2）

2.3.1で類型化した光の定義と文脈から読み取れる特徴を記す。

1) 明るさを示す光（48）

暗い、薄暗い、薄明るい、明るいなど明るさの度合いを表現するものを抽出。明るさを示す表現（19）よりも、暗さを示す表現（29）の方が多いことがわかる。明るい冒険空間に比べ記述の少ない安全圏を中心とした暗さの表現が多いことから、漠然と明暗を感じるときは暗さが認知されやすい傾向がみられる。

2) 境界を生む光（45）

影に入って、光のなかでなど明暗の境界を移動・意識させる表現を抽出。明暗の境界を移動するもの（15）、明暗の境界を意識するものも移動はしないもの（13）明暗いずれかの領域にいることを意識させるもの（17）に細別できる。

明暗の境界を移動するものに関しては、光から闇に移動する場合（7）と闇から光へと移動する場合（8）がある。光から闇に移動する場合は一人で行動したり、思案にふける傾向がみられた。逆に闇から光へと移動をするときは、他者と一緒に行動をすることが多い。

明暗の境界を意識するものの境界を越えないものに関して、光のなかから闇を意識するもの（8）、闇のなかから光を意識するもの（5）がある。光のなかから闇を意識する場合は、底や先の見えない広がりを感じさせる傾向がある。闇のなかから光を意識する場合は、その光の面積は小さい場合が多い。

3) 被さる・包む光（7）、4) 満ちる光（3）

境界を生む光のうち、その境界があいまいで空間をぼんやりと取り巻いているものを抽出。被さる・包む光について抽出された光に関する表現は、闇・暗闇・午後の日・夕暮れのいろ・夕暮れの陽の光であることから、闇や傾いた日の光はある程度の質感をもったものとしてとらえられていることがわかる。心地よさとともに描写される傾向がみられた。

満ちる光は前述した被さる・包む光のうち境界の内側からその光を感じているものを指す。冒険空間（内）に特有の表現である。満ちた光は、魅せられた、神秘などの記述と共に描写され、非日常を感じさせる魅力的なものとして扱われることが多い。

5) 離れた光 (18)、6) 下からの光 (3)、7) 上からの光 (18)

水平方向、上下方向に見える光を抽出。そのうち光までの距離があるものを離れた光、距離に関する記述がないものを光がある方向によって下からの光と上からの光として抽出した。下からくる光は安全圏に特有の光である。上からの光に関しては、室内において上からぼんやりとくる光と太陽光などの直線的な光がある。

8) 反射 (42)

何かが光る (26)、物や空間を照らす (9)、光の屈折を表す描写 (7) を抽出。何かが光る場合は、外に行くときなど舞台空間が切り替わる際に多くみられる。光る物は親しみのある対象の場合が多い。物や空間を照らしている場合は、光は燃え上がる、のぼるなど上方向を意識する表現とともに描写されることが多い。光の屈折を表す描写は主に光が水面に反射する様子をさす。

9) 逆光 (21)

影が図となるものを抽出。図となる影が透過性を持つ場合 (7) ともたない場合 (14) がみられた。図となる影が透過性を持つ場合とは、光になにかを透かしている場面を指す。主人公が一人で行動しているときに多くみられ、落ち着いてじっくりと回りを見まわした際に認識される光だという傾向があった。影が透過性を持たない場合、すなわち光が何かによって遮られている場合は、影の輪郭が強調される場合と影よりも背景となる光の部分が意識される場合があった。

2.3.2 光の形（分析結果2）

10）順光（6）、11）すきま・穴の光（7）

光が図として描写されているものを抽出。この場合光はかがやくものとして光の強さが強調される傾向があった。特に安全圏において、光が隙間や穴から漏れているものをすきま・穴の光として細別した。

12）輪郭を生む光（12）

前述した逆光、順光のうち、物・人・光の輪郭線がはっきりと描写されているものを抽出。光の輪郭線として抽出された輪郭は、ぎざぎざ、四角、円など。

13）触れる（17）

あたたかい、あたるなど触覚を思わせる表現されているものを抽出。自分自身が光を感じる場合（4）となじかに光があたっている場合（13）がある。ほとんどが太陽光である。

14）細かい光（9）

光に関する表現が点々と、まだらになど細かく複数あるように描写されているものを抽出。冒険空間に特有の光である。美しさや魅力、不思議さを表現する描写とともに表現されることが多く非日常性を示す傾向がある。

15）動く光（21）

光や影がちらちらとする、出現する、移動するなど動的な要素とともに描写されているものを抽出。ちらちらとする光に関しては、物語のなかで主人公ら小人が使用するロウソクの光を表現するものがほとんどであり慣れ親しんだ安全圏を象徴するものだと捉えることができる。その他動く光は、暗さや夕闇の中で多くみられ、対象物本体の移動よりも対象物によってつくられる光や影の動きが認知されやすくなっている。

1 6) 影 (29)

影という語句を含む表現を抽出。境界として働く場合、影が動く場合は前述のとおり。影はきれぎれ、交差しているなど直線的で複数表現されているものとまだらなどの曲線的なものがある。直線的で複数ある影は不思議な世界、異様など細かい光と同様に非日常性を示す傾向がみられる。一方曲線的に表現されている場合は、影は強い印象を与え、なかにある存在から注意をそらす効果がみられた。

1 7) その他 (18)

光に関する語句が名詞として記述されるがその形態がわからないもの。

第3章

舞台空間と心情パターン

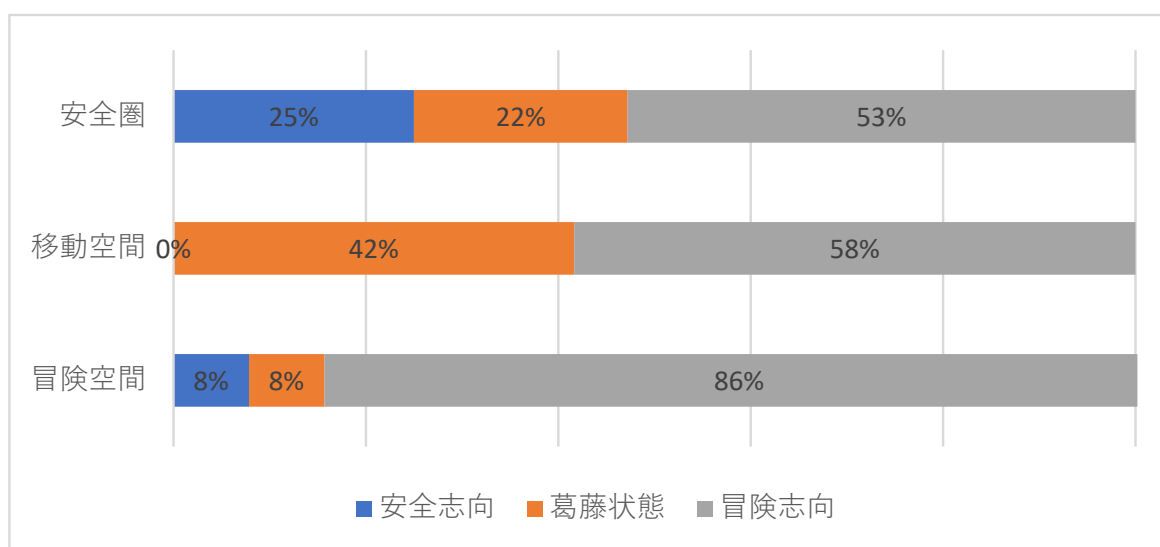
3.1. 分析方法

対象とした舞台空間における言説から、文単位で安全、冒険に関する心情がみられるものを抽出し類型化を行う。心情パターンは冒険を肯定する〔冒険志向〕、安全性を求める〔安全志向〕、両者の〔葛藤状態〕の3つに大別できた。抽出例を表3.1に示す。

また、安全・冒険に関する心情がみられる文として抽出した100項目について、舞台空間ごとに描写されている心情パターンの傾向を定量的に分析したところ図3.1のような傾向が得られた。【安全空間】、【移動空間】、【冒険空間】へと舞台空間の推移を通して心情パターンは〔安全志向〕から〔冒険志向〕へと後押しされてされているといえる。

▼表3.1 抽出例

	【安全圏】	【移動空間】	【冒険空間】
安全志向	どっと安心する気もち一つまり、隠れ場所に安全にいるときに感ずる自然なよろこび		
葛藤状態	こういうもの（いつも見なれたじぶんのもちもの）を失いたくないという思い	野原のひろさ（中略）は、おそれと敬いの念をおこさせました。	
冒険志向	いやだ。こんなふうに、いつまでも、（中略）暗いところで、床下で	廊下をすすんでいくにつれて、心臓がドキドキしてきました。	「どんな困難があっても、やっぱりきてよかったわ！」



▲図3.1 舞台空間と心情パターン

3.2. 舞台空間と心情パターン（分析結果）

各舞台空間で描写された心情は表3.2のようになった。以下に特徴と傾向を記す。

3.2.1 【安全圏】

1) 【安全圏】×〔安全志向〕

安全、居心地が良い、なつかしい、家庭的など〔親しみ〕や〔快適〕さを示す描写、安全圏を失うことへの〔未練〕などの心情がみられる。

2) 【安全圏】×〔葛藤状態〕

安全圏への〔疑問〕、冒険空間へでることへの〔罪悪感〕、安全と冒険の両方を求める〔欲〕などの心情がみられる。

3) 【安全圏】×〔冒険志向〕

冒険空間への〔憧れ〕や〔好奇心〕、冒険空間へ出られることへの〔喜び〕、安全圏への〔不満〕などの心情がみられる。

3.2.2 【移動空間】

1) 【移動空間】×〔葛藤状態〕

安全圏を脱出することに対する〔罪悪感〕、戻れないかもしれないという〔心配〕、先にある冒険空間への〔畏怖〕や先が見えないことへの〔疲労〕などの心情がみられる。

2) 【移動空間】×〔冒険志向〕

冒険空間が近づいてきたことに対する〔感動〕、〔期待〕、〔楽しさ〕などの心情がみられる。

3.2.3. 【冒険空間】

【冒険空間】×〔冒険志向〕

初めてみる光景にたいする〔感動〕、〔楽しさ〕。冒険空間に対する〔満足感〕、安全圏へ否定的な心情描写などがみられる。

▼表3.2 抽出した心情

【安全圏】(36)			【移動空間】(15)			【冒険空間】(52)							
(安全志向) (9)	(葛藤状態) (6)	(冒険志向) (21)	(安全志向) (4)	(葛藤状態) (8)	(冒険志向) (7)	(安全志向) (4)	(葛藤状態) (4)	(冒険志向) (44)					
安心	安心+絶望	冒険空間への	憧れ	なし	罪悪感	冒険空間への	感動	恐怖	喜び+不満	冒険空間に来た	感動	先に進む	意欲
快適	感動+恐怖		好奇心	心配		意欲	不満	勇気+恐怖			喜び		勇気
安全圏に戻った	感動	冒険空間へ行ける	喜び	疲労+喜び		期待	安心	期待+退屈			楽しい	冒険空間への	親しみ
	喜び	罪悪感	安心	恐れ+敬い		嬉しい		悩み			喜び		安心
安全圏への	未練		幸福			楽しい					幸福		不思議
安全圏に対する	劣等感	安全圏への	拒絶			安心					興奮	安全圏への	疑問
冒険空間に対する	恐怖		不満								好奇心		退屈
		冒険空間を離れた	悲しみ								憧れ		困惑
			切なさ								満足		

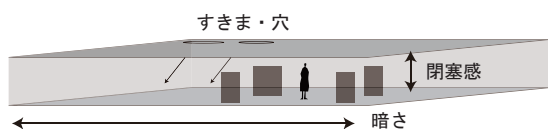
3.2. 舞台空間の空間特性（分析結果）

前述した光の類型と舞台空間の空間特性の相互関係をみるため対象とした言説のうち各舞台空間の様子がわかる記述をもとに、文脈を読み込みながら展開される空間の特性をとらえた。

1) 【安全圏】：床下、木ずりとしっくい間の家（図3.2.1）

「ほこりと、ロウソクの光と、とじこめられた暗がり」に囲まれた生活と表現される。それぞれ水平方向または上下方向に広がりを持つが暗さ、多すぎる物や家具、ほこりっぱさなどにより閉塞感が印象づけられる。光源は照明の他は床と壁の隙間や穴からもれる光のみで暗い。

[閉塞感]、[暗さ]

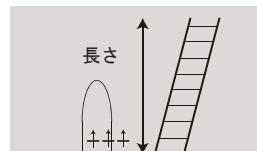
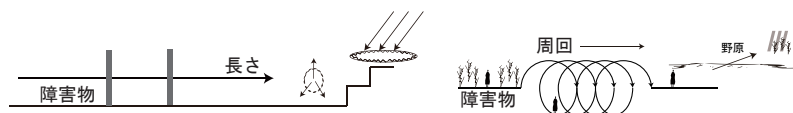


▲図3.2.1

2) 【移動空間】：廊下、野原、はしご、下水管（図3.2.2）

入りくんだ、ちっとも近づいているように思われない、はるか頭のうえにそそりたっている、はてしない単調ながめといった描写により空間の長さが印象づけられる。道中にはそれぞれ頑丈な木戸、草、ゆれるはしごの段、小枝という障害物としてはたらくものがあり、冒険空間までの道のりを困難なものとしている。安全圏における居住空間と冒険空間を直接つなぐ役割をはたす廊下とはしごに関してはそれぞれの障害物は可動的なものであるが、一人で木戸を開けられない（木戸をしめられたら戻れない）、はしごを引き上げられたら戻れないという一方通行性がみられる。廊下、はしご、下水管に関しては一本道であるが、野原に関しては、道に沿って周回しつつ異なる体験をしていくという回遊性がみられる。

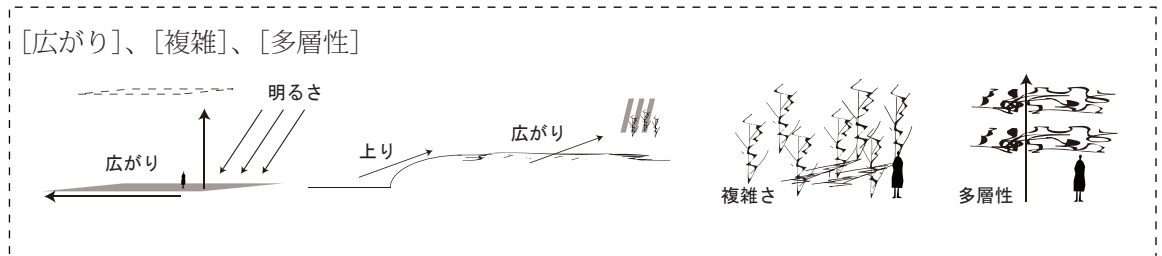
[長さ]、[一方通行性]、[回遊性]



▲図3.2.2

3) 【冒険空間（内・外）】：室内（お屋敷、くつ、トムの家）、室外（庭、野原、川辺、空、模型の村）（図3.2.3）

室内の冒険空間は、外の出た瞬間体験する明るさで印象付けられている。そして大平原のような床、天井は、はるか高く、くらい上のほうへ遠ざかっていてなどの表現により、まず水平方向、つぎに上下方向の広がり認識されている。室外の冒険空間は多様であるが、茂みや葉が重なる複雑さや多層性、土手や生垣など上下移動を促進させる垂直性、高い場所から見る光景の広がりなどの描写がみられた。



▲図3.2.3

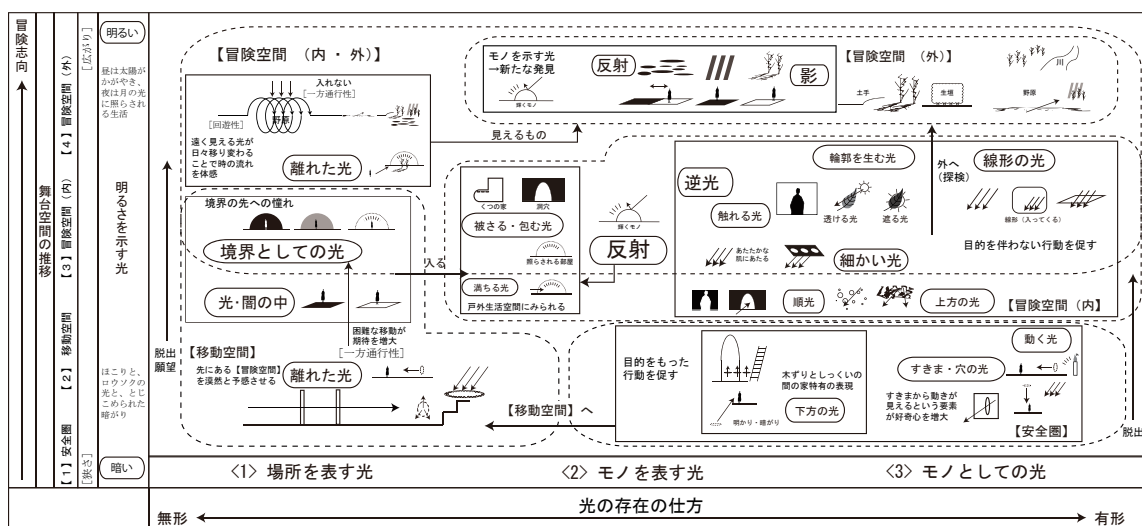
第4章

空間特性と光が心情に与える影響

4.1. 分析方法

分析結果を表4.1に示す。縦軸が冒険志向の強さ、横軸が光の存在の仕方を示す。各光の要素および舞台空間は表2の数値と図2に示した舞台空間と光の存在の仕方の対応関係をもとにプロットしている。さらに図化した各光の形、空間特性を示している。光の存在の仕方・光の形を規定する要因である舞台空間の空間特性と各舞台で描写される心情の変化の対応関係を追うことで空間特性と光が心情に与える影響を考察する。

▼表4.1 空間特性と光が心情に与える影響



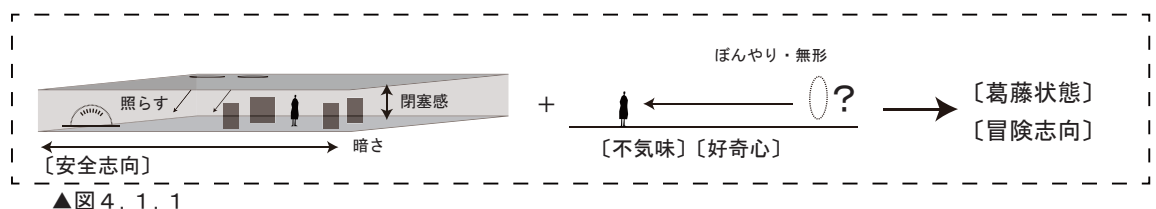
4.2.1. <場を示す光> (分析結果)

<場を示す光>は【安全圏】と【移動空間】において認識されやすい。

1) 【安全圏】×<場を示す光> (22)

明るさを示す光 (11)、離れた（下から・上から） (6)、境界 (2)、反射 (2)、影 (1)

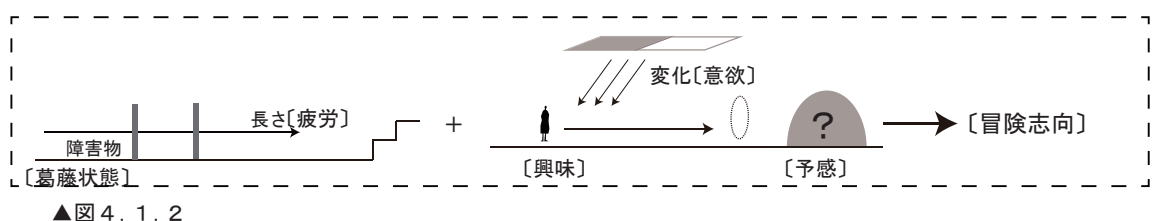
明るさを示す光と離れた光が多い。明るさを示す光においては暗さが繰り返し強調され、安全圏の不満につながっている。離れた光ははうつろな、うすあかり、かすかにとぼんやりした無形の光であり不気味さと好奇心をもたらしめている。閉塞感のなかでまだ見ぬ空間から来る離れた光をぼんやり認識することで先にある冒険空間を恐れつつも意識するきっかけを与えていると考えられる。(図4.1.1)



2) 【移動空間】×<場を示す光> (11)

明るさを示す光 (3)、離れた光 (3)、境界 (2)・包む (1)、反射 (2)、動く (1)

移動空間においても明るさを示す光と離れた光が多い結果となった。明るさを示す光においては、暗闇が少しくすれて、少し明るくなったなど明るさの変化を示すものが多い。明るさの変化によって長い道のりを進んでいることを実感するが、同時に疲労も感じる場合もある。さらに出口付近に見える離れた光とともに新たに見える物を探すという行為を促すことで先にある冒険空間を予感させている。記述は少ないが境界を生む光・包む光も境界の先を見る行為や明るさが変化した（闇に包まれた）場面で用いられていることから似たような効果をもたらしめていると考えられる。(図4.1.2)



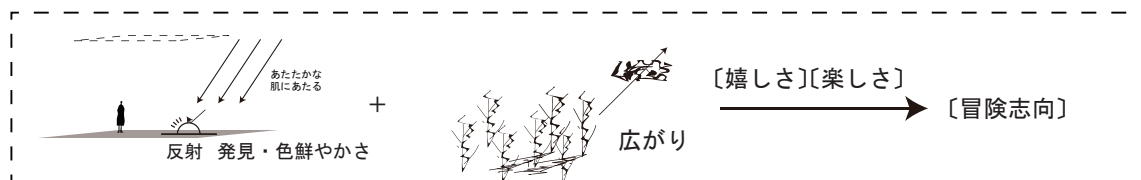
4.2.2. <モノを示す光> (分析結果)

<モノを示す光>は冒険空間（外）において特によく認識されているが、移動空間、安全圏においては認識されにくくなっている。

【冒険空間（外）】×<モノを表す光> (54)

反射 (22)、逆光 (9)、触れる (6)、影 (5)、境界 (3)、細かい (2)、明るさ (2)、動く (1)、線形 (1)、包む・被さる (1) 輪郭 (1)

反射が特に多く、続いて逆光、触れる、影が多い結果となった。木立や草などあらゆるものに光が反射し、新しいものの発見や今までとは違った光景をもたらすことで冒険空間の魅力を高めている。また色と共に描写されることが多く、光の強さよりも光によって生じる色鮮やかさの方が意識されやすいと考えられる。このとき光はものにあたる（触れる）ものとして、漠然と実体をもったものとして捉えられることが多い。逆光に関しては、多層性や複雑さをもつ空間で描写されることが多く実際には草や茂み覆われた狭い空間であっても影によってきりとられた背景の明るさが強調されることで、広がりや喜びを感じさせている。(図4.2)



▲図4.2

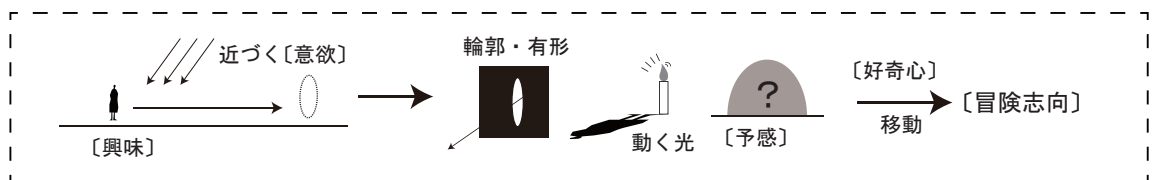
4.2.3. <モノとしての光> (分析結果)

モノとしての光は、移動空間・冒険空間（内）にて認識されやすいが、冒険空間（外）では他の三者に比べ認識されにくい。

1) 【安全圏】×<モノとしての光> (13)

動く (3)、すきま (3)、下から (2)、反射 (2)、影 (1)、明るさ (1)、離れた (1)

安全圏で描写される<モノとしての光>は【移動空間】、あるいは【冒険空間】との境界付近で多くみられ、前述した安全圏で描写される<場を示す光>が近づくという行為により変容したものである。光がくる場所（すきま、下の穴）を認知し、さらに境界の先で動くものをその物体自身ではなく光や影によってまだわからないものとして捉えることで境界を超える行動を促している。(図4.3.1)

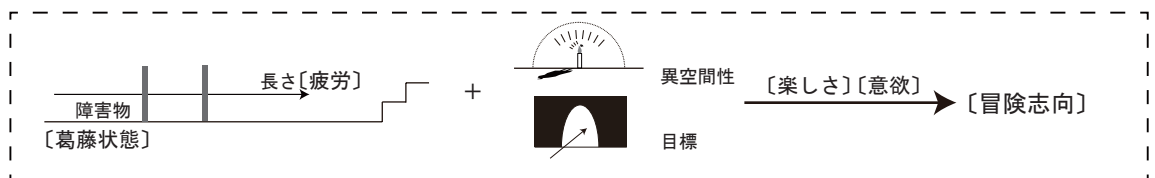


▲図4.3.1

2) 【移動空間】×<モノとしての光> (15)

動く (4)、反射 (2)、影 (1)、離れた (3)、輪郭 (2)、包む (1)、順光 (1)、明るさ (1)

反射する光や影が単調な長い空間に映り、動くことによって異空間性や非日常性を生み出し道中を楽しいものとしている。一本道でみられる離れた光は、輪郭をもったはっきりとしたものとして認識されることでそこが出口であることを確信させ、主人公らの足を速めている。(図4.3.2)

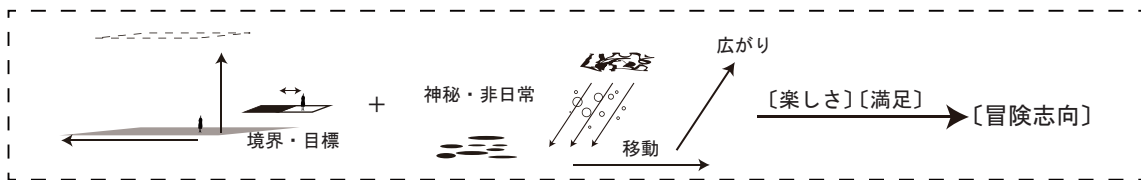


▲図4.3.2

3) 【冒険空間（内）】×＜モノとしての光＞（42）

上から（8）、影（8）、細かい（5）、境界（4）、明るさ（3）、動く（3）、逆光（2）、順光（1）、触れる（2）、離れた（2）、輪郭（2）、上から（1）、反射（1）

上からの光、影、細かい光が多くなっている。上からの光は、冒険空間の広がりによって光の境界を生み出したり、細かい光の束となってさし込んでくるように認識されている。境界を生み出す光には、広大な冒険空間に区切りをもたらすことで体験を豊かにする効果があると考えられる。細かい光は同時に発生するまだら、きれぎれなどの細かい影とともに室内にさし込み神秘さや楽しさを生み出している。しばらく細かい光が満ちる空間を楽しんだのちは、何となく外に出る、外部との境界が作り出す細かい光を取り除くことで外の広がりや明るさを再認識し魅力を感じている。（図4.3.3）



▲図4.3.3

4.3 小結

以上の分析から、以下の3つの傾向を見出すことができた。

1. <場を示す光>はぼんやりとした、変化するなど形をもたない存在であり【冒険空間】を意識するきっかけを生み出すものとして描写されることが多い
2. <モノを示す光>は 【冒険空間（外）】に多くみられ、あらゆるモノに<反射>する光などがモノと光の存在を同時に認識させ新たな発見もたらすことで【冒険空間】の魅力を高めている
3. <モノとしての光>は<場を示す光>が形のある姿に変容して認識されることで【冒険空間】を目指す指標となったり、外にでるきっかけをもたらしている。

第5章

結

5.1. 結論

以上、本研究では『小人の冒険シリーズ』に登場する光に関する描写を抽出し、舞台空間の特性と登場人物の心情パターンと合わせて分析を行うことで光が無意識に与える影響を考察した。その結果、多様な光のイメージを類型化し、光のイメージが心情に与える影響として以下の三つの傾向を得ることができた。

1. 人が挑戦的な心情になるきっかけを得るときは、光は場所を表すものとして無形に近い状態で認識される。
2. 人が挑戦的な行動へと踏み切る場合は、光はモノのように有形のものとして認識され目標や興味の対象となる。
3. 人が新たな物事や空間にに対して魅力的に感じるときは、光はモノとの関わりによって認識される。

5.2. 今後の課題

ここまで、文学において描写される架空の世界という実態のない空間を研究対象とした。本論では心情描写と空間描写から光と空間が心情に与える影響の一端を明らかにするまでにとどまったが、最終的には本論で得た知見をもとに実際に建築空間を創造することが目標である。

光の取り入れ方を工夫した建築はこれまでに多くのものがつくられてきているが、名作と呼ばれる文学のなかで語られている空間イメージを根拠に新しい光の認識の仕方、扱い方を熟考していくことが今後の課題である。

【参考文献・引用文献】

【参考文献】

- 1) 香山壽夫 『建築意匠講義』 東京大学出版会 (1996)
- 2) 安藤聡 ファンタジーと歴史的危機—英国児童文学の黄金時代 彩流社 (2003)

【引用文献】

- 1) メアリー・ノートン作 / 林容吉訳 『床下の小人たち』 (1956) 岩波少年文庫
- 2) メアリー・ノートン作 / 林容吉訳 『野に出た小人たち』 (1976) 岩波少年文庫
- 3) メアリー・ノートン作 / 林容吉訳 『川をくだる小人たち』 (1976) 岩波少年文庫
- 4) メアリー・ノートン作 / 林容吉訳 『空をとぶ小人たち』 (1977) 岩波少年文庫

謝辞

本研究を成し遂げるにあたって、小説における空間描写から建築を捉えなおしてみたいという突拍子のない話であっても、建築以外の分野を含めたさまざまな視点から暖かくご指導してくださいました坂牛先生に深く感謝申し上げます。最終的にうまく建築に結びつかないのではないかと不安になることも多々ありましたが、こうして小説から建築を考えてみたいというかねてからの希望を論文としてまとめることができました。

そして、大月さん、大村さんをはじめとする研究室の方々にはたくさんのアドバイスやご指導をいただきました。深く感謝申し上げます。

最後に、同研究室の同輩に感謝申し上げます。みなさまの暖かいアドバイスと言葉が心の支えとなり最後までやり遂げることができました。ありがとうございました。

資料編

形	舞台空間	存在	言説
明るさ	【安全圏】	場	暗くてほこりっぽい廊下が
明るさ	【安全圏】	場	部屋は、あかるく、居心地よくみえました。
離れた	【移動空間】	場	廊下のはずれが、かすかにあかるくなっているのが、アリエッティに見えました。
離れた	【冒険空間（内）】	場	アーチ型になった通路のところで、あかるいほうをむいて、身をかがめていました。
境界	【冒険空間（外）】	場	ただ影にはいつているだけのせいなのかしら。
影	【冒険空間（外）】	場	ただ影にはいつているだけのせいなのかしら。
境界	【冒険空間（外）】	場	男の子の冷たい影のなかで、かすかに身をふるわせました。
境界	【冒険空間（外）】	場	男の子の冷たい影のなかで、かすかに身をふるわせました。
境界	【冒険空間（外）】	場	アリエッティは、たったひとり、陽の光のなかにじっとしています
境界	【冒険空間（外）】	場	アリエッティは、たったひとり、陽の光のなかにじっとしています
明るさ	【安全圏】	場	もし、うちがこれほど暗くなら、きつとたいへんすばらしいことだろう。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	うすぐらく、アリエッティは、胸をときどきいわせながら、小走りに横ぎりしました。
明るさ	【安全圏】	場	いやだ。こんなふうに、いつまでも、（中略）、暗いところで、床下で
被さる・包む	【冒険空間（内）】	場	大広間は、はいあがって出してみると、闇につつまれて、ほんやり見えていました。
被さる・包む	【冒険空間（内）】	場	大広間は、はいあがって出してみると、闇につつまれて、ほんやり見えていました。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	アリエッティは、うすぐらいのは平気でした。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	暗いところにに住んでいるので、なれていましたし、それに、こんな場合には、かえって安心していられました。
境界	【冒険空間（内）】	場	あかりのなかにかけこんでむこう側に走りぬけました。
境界	【冒険空間（内）】	場	テーブルのしたが、まっくらな大きな洞穴のようになっていたので
境界	【冒険空間（内）】	場	テーブルの下から、また、うすあかりのほうへ出て、上を見あげると、（中略）食器だんすや、絵や、カーテンが目につりました。
境界	【冒険空間（内）】	場	テーブルの下から、また、うすあかりのほうへ出て、上を見あげると、（中略）食器だんすや、絵や、カーテンが目につりました。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	そこは、あかりが、うすぐらいにしても、ほかよりすこしはあかるかったのです。
離れた	【安全圏】	場	上の、あかりのついたうつろな空間を見つめました
離れた	【冒険空間（内）】	場	天井は、はるか高く、くらい上のほうへ遠ざかっていて、まわりじゅうが、がらんとしていました。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	あかるい四角の場所を通りこすと、廊下は、また暗くなりました。
境界	【冒険空間（内）】	場	あかるい四角の場所を通りこすと、廊下は、また暗くなりました。
影	【冒険空間（内）】	場	ちいさな影法師が、足もとからまえに、うっすらと落ちていきます
境界	【移動空間】	場	ホミリーの疲れた顔は、黄金色の光のなかで、黄色く見え、あごのへんが、だらんとしていました。
境界	【移動空間】	場	長くのびた影と、夢みるような草原との、はてしない海のうえに、一つの島のような木立が浮かんでました
離れた	【移動空間】	場	なかの暗いあたりを、おそろしそうに、見ました。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	ロウソクのせいで、夕暮れがいつそう暗く思われました。
境界	【冒険空間（内）】	場	ちいさな金色の太陽が三つ、暗闇のなかにうかんでいるのが目にはいりました。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	それは、うつくしく晴れ渡った日でした
反射	【移動空間】	場	陽がかがやいて、雨あがり、で、台地がそのかおりをはっさんしていました。
明るさ	【移動空間】	場	床の下の暗闇にひとしれず住んでいることのほうが、ほんとうにいいものなのだろうか。
境界	【移動空間】	場	土手をのほりつめて、生垣の影にはいりました。
明るさ	【移動空間】	場	まわりのあかるさに目くらむようで、アリエッティは目をすぼめて、あたりを見まわしました。
明るさ	【移動空間】	場	ほこりくさいうすぐらがりのなかで、生きて、死んでいったかもしれないのです
境界	【移動空間】	場	草の茂みが、まだらな影をつくっているところへ、たおれるようにねそべって
影	【移動空間】	場	草の茂みが、まだらな影をつくっているところへ、たおれるようにねそべって
触れる	【移動空間】	場	陽のあたる野原へおしよせ たがっているかのように
反射	【移動空間】	場	そのたまり水の暗い穴にも、雲一つない空がうつっていました。
被さる・包む	【移動空間】	場	午後の日につつまれた風景は、たしかにながめる価値がありました。
影	【移動空間】	場	黒と金の異様な交差で、一足ごとに、明暗がうごきました
動く	【移動空間】	場	黒と金の異様な交差で、一足ごとに、明暗がうごきました
境界	【移動空間】	場	こい影のなかにたたずんで、ひろがった牧場のかなたにじっと目をそそぎました。
境界	【移動空間】	場	野原の眺めは、そのときの光のなかで、あのはじめての目に見たのと、おなじようでした
明るさ	【移動空間】	場	さいごのみぞ沿いの道は、こい夕闇で、けさでた洞穴のあたりまできて、まっくらになろうというころでした。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	あるかなきかのあかるさのなかで、（中略）編みあげぐつのあたりを見あげると、（中略）あたたかい家庭的なものただよっているのが感じられました。
反射	【冒険空間（内）】	場	ちいさなくぼみ部屋が、舞台の一場面のようにてらしたされて、奇妙な影が、つぎの間の砂の壁にうつりました。
境界	【冒険空間（内）】	場	ロウソクの光のなかに青白い顔をうかべて、はだかの釘に手をかけて、立っていました
明るさ	【冒険空間（内）】	場	日あたりのいい砂の上にすわりこんで、ぐったりとくつによりかかっていました。
満ちる	【冒険空間（内）】	場	洞穴はあかるい月の光にみちていて、なんでもはっきり見えました。
境界	【冒険空間（内）】	場	アリエッティが、なつかしい青白い光のなかで見ると
明るさ	【冒険空間（内）】	場	月光の海と影こい森
明るさ	【冒険空間（内）】	場	暗闇の生活にもどるわけには、いかないんですもの
影	【冒険空間（内）】	場	くぼみ部屋はききうに暗くなって、葉ごしにさす月の光にたちきられて揺れ動く、きれぎれの影がさしました
満ちる	【冒険空間（内）】	場	穴が緑っぽい海の底のような光にみちているのを見て、ぶつぶつこぼしました。
境界	【冒険空間（内）】	場	くぼみ部屋がいきなり陽の光のなかにおどり出ました。
境界	【冒険空間（内）】	場	薄暗いなかで横になっていると、時がたつのがおそく、まいにちがひどくたいくつでした。
明るさ	【冒険空間（内）】	場	いつもよりあかるい気がしましたがそのとき、入り口のひもとじてなかったのを思い出しました
明るさ	【安全圏】	場	なかは洞窟のように暗く 人の住んでいる気配もなく、ほこりとネズミのにおいがして がっかりでした
上から	【安全圏】	場	うすあかりのさす踊り場の段のうえに姿をあらわして ポッドのそばにならびました。
離れた	【安全圏】	場	下はうつろな暗闇で、まえのほうにはひらいたドアがひとつ みえていました。「下をみるんじゃない」
境界	【安全圏】	場	アリエッティはなんとなく、薄暗い踊り場のほうへ出ていきました
影	【安全圏】	場	そこは、ほこりっぽくて影が多く、舞台裏へいくところのようでした。
離れた	【安全圏】	場	足もとの深い穴の底がかすかにあかるいのに気が付きました
明るさ	【安全圏】	場	ルービーおばさんの家は 度の部屋も暗すぎて、熱すぎる
反射	【安全圏】	場	ロウソクの炎がしずかにまっすぐ立ちのぼっていて、へいわな部屋を照らしています。
明るさ	【安全圏】	場	洞くつのようなその場所は がっかりするほど人の気配がないがらんとして、暗くて、ほこりとネズミの臭いがする
明るさ	【安全圏】	場	このはじめてみるあたらしいすみかは、真っ暗でした
反射	【安全圏】	場	ファーバンク邸と同じくらの暗さロウソクの光に照らされている
境界	【安全圏】	場	この台のうえ、暗い影のところに、ちいさな部屋がふたつあって
離れた	【安全圏】	場	天井というものはまるでなく、どこかずっと上のほうから、きみのわるい光がさしている

すきま・穴	【安全圏】	場	「待てよ」光のさすスキまのほうをじっと見あげていたのですが
明るさ	【安全圏】	場	暗いときでも、ずっとすばやく動けるのでした
明るさ	【安全圏】	場	こんやはそれこそ真っ暗でした
明るさ	【安全圏】	場	アリエッティのささやきが急に暗くなっただけでこええました
明るさ	【冒険空間（内）】	場	洗い場の戸の暗がりに、顔をまっさおにして目をそいでいたのです
明るさ	【冒険空間（内）】	場	スピラーを暗がりから引張だして暖炉の方へつれていきました
明るさ	【移動空間】	場	下水の口は、たいへん暗く、井戸のように、床の面からひくく落ち込んでいました
反射	【移動空間】	場	大きく口をあいた暗闇のなかにみんなの持っているロウソクの光が反射している
境界	【移動空間】	場	うごいたり消えたり、ロウソクの、ちらちらするあかりの中で、まるで魔法の力
動く	【移動空間】	場	うごいたり消えたり、ロウソクの、ちらちらするあかりの中で、まるで魔法の力
離れた	【移動空間】	場	音を追うように行く先の暗闇に、じっと目をこらしました。
明るさ	【移動空間】	場	昼は太陽が輝き、夜は月の光に照らされる生活
反射	【移動空間】	場	昼は太陽が輝き、夜は月の光に照らされる生活
離れた	【移動空間】	場	「でて、のぼって」先の暗がりですピラーがさげびました
被さる・包む	【移動空間】	場	香りのよい暗闇につつまれてしまいました
明るさ	【移動空間】	場	あたりの暗闇が少しすれてきたようで、なにかほの白いもやでも流れから立ち昇っているようでした
明るさ	【移動空間】	場	すこし明るくなったようだが
明るさ	【移動空間】	場	暗がりのなかで、なにか動くのを感じたようですが
明るさ	【移動空間】	場	晴れ渡った青空の下で
逆光	【移動空間】	場	光とかがけで切りだされた、この奇妙なうつろのなか
影	【移動空間】	場	影になった水のころまでまっすぐおりて
明るさ	【移動空間】	場	夢のような夕暮れです
境界	【移動空間】	場	澄んだ影のない月あかりのなかでひどく近くにいるように見えました
明るさ	【移動空間】	場	こんどはもっとあかるく、めがくらむようで、あたりの薄暗がりが真っ暗闇になりました
動く	【移動空間】	場	「ほらとうさんがくるわ」弓型の入り口が人影でかけたのをみていいました
影	【移動空間】	場	「ほらとうさんがくるわ」弓型の入り口が人影でかけたのをみていいました
境界	【移動空間】	場	薄明りの中でボタンをはずす不思議なおとがかすかにきこえていました
境界	【移動空間】	場	（口は）暗闇のなかへ枝わかれしていつて
被さる・包む	【移動空間】	場	模様の村全体が平和な夕暮れの陽の光につつまれて音もなく夢路をたどることとなる
その他	【冒険空間（外）】	場	ガス灯がともるとまた部屋がみえるようになって
境界	【冒険空間（外）】	場	あわい春の陽のひかりのなかへふわっとただよいました
離れた	【冒険空間（外）】	場	うすい腹のようなもやが、太陽のほうへ動いていくのを見まもっていました。
境界	【冒険空間（外）】	場	いきなりまた、陽の光のなかへ出ると
離れた	【冒険空間（外）】	場	太陽のほうへ顔をむけて、きゅうにまたよみがえってきたあたたかさのなかで、日なたぼっこのできるのを、ありがたいとおもいました。
触れる	【冒険空間（外）】	場	太陽のほうへ顔をむけて、きゅうにまたよみがえってきたあたたかさのなかで、日なたぼっこのできるのを、ありがたいとおもいました。
境界	【冒険空間（外）】	場	鉄道の線路が、陽の光のなかで輝いていて、
境界	【冒険空間（外）】	場	アリエッティはむしゃくしゃして、影のほうにちぢこまって、ひとりつぶやきました。
境界	【冒険空間（外）】	場	アリエッティは、家の影にいて、
境界	【冒険空間（外）】	場	ふたりがそばをとおって、月の光のなかへ出ていくのを見ていました。
境界	【冒険空間（外）】	場	そして、ふたりの姿が闇のなかへ消えていくとき、おとうさんのことばが耳にはいりました。
境界	【冒険空間（外）】	場	ただよいながら暗闇に消えていくのを、見守っていましたが、
明るさ	【冒険空間（外）】	場	まるで爆発でも起こったかと思うように、パッと部屋があかるくなりました。
明るさ	【移動空間】	場	部屋はまっ白で、影もなく、まるであじけなく見えました。「まあ、いやあね」と、アリエッティがい

形	舞台空間	存在	言説
触れる	【冒険空間 (内)】	モノ	陽のあたっている床をよこぎって
輪郭	【冒険空間 (内)】	モノ	ぼら穴のようなくらがりがあって、つりさがっている分銅の輪郭が、ぼんやりと目にうつるだけでした。
反射	【冒険空間 (内)】	モノ	うすあかりですこし光って、
反射	【冒険空間 (内)】	モノ	陽にかがやく金色の石の床
順光	【冒険空間 (内)】	モノ	とびらが、夢にみたおとぎの国の入り口のように、かがやかしい陽の光にむかってひらかれていました
逆光	【冒険空間 (内)】	モノ	大きなすのあしが、陽の光のなかにそびえたっている
逆光	【冒険空間 (内)】	モノ	あちこちに草の葉が出ていて、陽の光をすかして透明な緑色に見えました。
逆光	【冒険空間 (内)】	モノ	あちこちに草の葉が出ていて、陽の光をすかして透明な緑色に見えました。
反射	【冒険空間 (外)】	モノ	陽の光にきらきら光る、緑がかったカナブン
逆光	【冒険空間 (外)】	モノ	茎が太陽を涼しく さえぎってくれました。
逆光	【冒険空間 (外)】	モノ	茎が太陽を涼しく さえぎってくれました。
逆光	【冒険空間 (外)】	モノ	あかるい陽の光をしょって たっている男の子
触れる	【冒険空間 (外)】	モノ	あかるい陽の光をしょって たっている男の子
逆光	【冒険空間 (内)】	モノ	廊下のあかりで、輪かくが浮き出ている、
輪郭	【冒険空間 (内)】	モノ	廊下のあかりで、輪かくが浮き出ている、
反射	【冒険空間 (外)】	モノ	陽にかがやく、もも色の皮膚に黄金の毛。
動く	【安全圏】	モノ	石油ランプのちらちらしているのをみました
逆光	【移動空間】	モノ	バラ色の空を背景にして かたむいた地平線
被さる・包む	【移動空間】	モノ	長くたなびく夕暮れのいろに、もはやおぼろげに見えていました。
順光	【冒険空間 (内)】	モノ	うらかな、おもての眺めが、くつの口にふちどられて、目にはいりました。
触れる	【移動空間】	モノ	草の葉がすかにゆれ動いて、さわやかな日差しをうけています。
逆光	【移動空間】	モノ	(アブラムシは) とても濃い緑色で、陽にすかして見ると、まるですきとおっているようでした。
反射	【移動空間】	モノ	朝はやい日にてらされて、いきいきと燃え上がるようでした。
影	【移動空間】	モノ	影も露をおびて、とおもわれました。
反射	【移動空間】	モノ	きらきらする金色の草のうえを、ちがったむきにみんな走って いました。
境界	【移動空間】	モノ	丘と、そのあしだのくぼみ、谷と森、すべて、陽の光のなかに夢見るようで
影	【移動空間】	モノ	森のなかの日陰になった 木の幹が立ち並んでいて
反射	【移動空間】	モノ	森のなかの日陰になった 木の幹が立ち並んでいて
反射	【移動空間】	モノ	陽のあたる野原へ
反射	【移動空間】	モノ	すかに空のうつついる(中略) 湖の水面を、(中略) すんだざざなみの動きがみだしました。
反射	【移動空間】	モノ	じぶんの顔があかるく うつつているのを見ました。
輪郭	【移動空間】	モノ	夢みるような青い空を背景に、こまかいところまではっきり していました
触れる	【移動空間】	モノ	陽をすった木の皮
反射	【移動空間】	モノ	黄金色の麦の切り株が、日暮れの光にてらされて、霜をかぶった、色のない 森林のように、列になって立ちならんでいました
影	【移動空間】	モノ	一つ一つの株は、それぞれ長い影をひいて、すべての影、太陽の光でいっぽうにくしけずられて、平行にならんでいました。
影	【移動空間】	モノ	陽と影で縞馬みたいに、まだらになっているのです。
細かい	【移動空間】	モノ	ただ、重なり合った枝に、陽の光がまだらにあたっているだけでした。
触れる	【冒険空間 (内)】	モノ	アリエッティは、遠く陽のあたる野原にじっと目をやりながら、ほほえみました。
逆光	【冒険空間 (内)】	モノ	くつの口があいて、おとうさんの頭と肩が、きゆうに、夜空にうかびました。
輪郭	【冒険空間 (内)】	モノ	くつの口があいて、おとうさんの頭と肩が、きゆうに、夜空にうかびました。
上から	【冒険空間 (内)】	モノ	ポッドは銀の光をあびて、洞穴のへりに立って、
触れる	【冒険空間 (内)】	モノ	月光にぬれた野原を、じっと見降ろしていました。
明るさ	【冒険空間 (内)】	モノ	月光の海と影こい森とを、ねむる牧場ごしにむすびつけていました。
細かい	【冒険空間 (内)】	モノ	日はでていて、野や林は、粉砂糖をふりかけたようにきらきら光っていました
上から	【冒険空間 (内)】	モノ	日はでていて、野や林は、粉砂糖をふりかけたようにきらきら光っていました
逆光	【冒険空間 (内)】	モノ	はしごの横木の一段一段がはるか上のうすくらがりのなかにそそり立っているのを見あげてかすかに身震いをしました
すきま・穴	【冒険空間 (内)】	モノ	アリエッティはあかりのともった戸口と、そのなか動いている人影にじっと目をむけていたのです
動く	【冒険空間 (内)】	モノ	アリエッティはあかりのともった戸口と、そのなか動いている人影にじっと目をむけていたのです
逆光	【安全圏】	モノ	はしごのてっぺんが、あかりのなかに浮かび上がって高い踊り場のへりがぎざぎざになって見えました
輪郭	【安全圏】	モノ	はしごのてっぺんが、あかりのなかに浮かび上がって高い踊り場のへりがぎざぎざになって見えました
上から	【冒険空間 (内)】	モノ	しなやかなわかい枝が、銀色の月の光を浴びて、左手の上にかがさっていました。
触れる	【冒険空間 (内)】	モノ	しなやかなわかい枝が、銀色の月の光を浴びて、左手の上にかがさっていました。
逆光	【冒険空間 (内)】	モノ	空にうきでた葉ずえを見あげて、
反射	【安全圏】	モノ	魚の骨のように光っているマッチ棒の梯子がある
境界	【安全圏】	モノ	食卓のおもてが、雪のように白く暗い影の海のなかにうかんでいました
順光	【安全圏】	モノ	(ゴシック型の穴は) それは、光輝いているようにおもわれました。
すきま・穴	【安全圏】	モノ	(ゴシック型の穴は) それは、光輝いているようにおもわれました。
下から	【安全圏】	モノ	下からくるうすあかりでふたりはお互いの顔がみえていました
動く	【冒険空間 (内)】	モノ	煙突は、ロウソクのちらちらする光で見ると
触れる	【移動空間】	モノ	煙突は、ロウソクのちらちらする光で見ると
触れる	【移動空間】	モノ	スピラーの細長い顔には白く光があたっていました
反射	【移動空間】	モノ	見ると、きらきら光る小枝が天井にしっかりとさしこんでありました
反射	【移動空間】	モノ	下水のトンネルは、かがやくばかり、綺麗な感じになりました
反射	【移動空間】	モノ	魚の骨のように銀色に輝くさなみ
反射	【移動空間】	モノ	ちいさな足あとが、たくさんちらばって光ってました
反射	【移動空間】	モノ	カナブンが好ききらきら光るかっきりしたよろい
反射	【移動空間】	モノ	(ヘアピン) はいまは綺麗に洗われてそして、きらきら光っていました
逆光	【移動空間】	モノ	長い草の葉暗くなりかけた空を背景に、重なったりはなれたり
上から	【移動空間】	モノ	あたたい日のさすやかんのふちまで、はいだす
明るさ	【移動空間】	モノ	太陽はあかるい空に高く昇っていておもったよりぶじかんは遅いようでした
逆光	【移動空間】	モノ	黄金色の花房が青空を背景にゆれていました
影	【移動空間】	モノ	牛は自分の大きな影のうえに、じっと声もたてずに立っていた
明るさ	【移動空間】	モノ	井戸のような暗い水が光ってみえていた
逆光	【移動空間】	モノ	たくさんの枝が綱目のようにまじわりあっているのがあかるい空をうしろに見えていました
反射	【移動空間】	モノ	暗い水面に、自分の青白い顔をうつしてみました
反射	【移動空間】	モノ	(太陽は沈みかけて) 川は黄金をことして流したようでしたあまりの明るさに、目をほそめていました
反射	【移動空間】	モノ	なるほど(爪切りばさみ)があります。きらきら光ってぶらさがっています
反射	【移動空間】	モノ	ふたりの顔は高くのぼった月の光をうけて、暗がりのなかに白くうかんでいます
触れる	【移動空間】	モノ	ふたりの顔は高くのぼった月の光をうけて、暗がりのなかに白くうかんでいます
細かい	【移動空間】	モノ	月がかがやきを増すにつれて二人の姿は、一面に銀をまぶしたようになりました
反射	【冒険空間 (外)】	モノ	エナメルをぬったようにつやつや光るモチノキの葉が灰色の空を背景に黒々とそよいでいて
反射	【冒険空間 (外)】	モノ	きらきら光るスレートの屋根
反射	【冒険空間 (外)】	モノ	いっぱい陽をうけた道
触れる	【冒険空間 (外)】	モノ	陽にあたためられた花やつぼみ

その他	【冒険空間（外）】	モノ	なにか太陽をさえぎるもの
逆光	【冒険空間（外）】	モノ	ちらちら陽の光がすけて見えるボプラの木
動く	【冒険空間（外）】	モノ	ちらちら陽の光がすけて見えるボプラの木
境界	【冒険空間（外）】	モノ	鉄道の線路が、陽の光のなかで輝いていて、
触れる	【冒険空間（外）】	モノ	陽のあたった小道
反射	【移動空間】	モノ	アリエッティの、あかりにてらされた、ひたむきな顔
境界	【移動空間】	モノ	銀粉のような種が、月の光のなかへ、いきおいよくとびちって、

形	舞台空間	存在	言説
触れる	【冒険空間（内）】	光	顔や手にあたる、うれしい陽の光
上から	【冒険空間（内）】	光	ぎざぎざした穴のふちを くぐりぬけたとき、いきなり、黄金をとかしたような、目くらむような光が目射ました
上から	【冒険空間（内）】	光	白っぽい石にふりそそぐ、春の日の光
境界	【冒険空間（内）】	光	ほら穴のようなくらがりがあって
動く	【冒険空間（内）】	光	アリエッティをかこむうつろな闇は、音のひびきで振動していました
境界	【冒険空間（内）】	光	いすの下側はかげになって、まるで天蓋のように、頭の上にかぶさっていました
その他	【冒険空間（外）】	光	陽の光
その他	【冒険空間（外）】	光	なにか、光るもの
動く	【冒険空間（外）】	光	ずっと冷たい影が走りました
影	【冒険空間（外）】	光	ずっと冷たい影が走りました
動く	【安全圏】	光	暖炉の火が、壁紙のうえに、ちらちら光を投げかけています。
影	【冒険空間（内）】	光	いろいろなものの影が うすぼんやりと見えて、
影	【安全圏】	光	床のすきまからあかり がもれていて、影がちらちらしました
動く	【安全圏】	光	床のすきまからあかり がもれていて、影がちらちらしました
影	【冒険空間（内）】	光	ガス灯がひとつ、錠のおりた 帳面玄関のそばに、火影をおとしていました
離れた	【冒険空間（内）】	光	もう一つ、階段のどちゅうの 踊り場のところで、かすかに光を放っていました
上から	【冒険空間（内）】	光	そこからさす金色の光が、廊下を四角にくぎっている
境界	【冒険空間（内）】	光	そこからさす金色の光が、廊下を四角にくぎっている
離れた	【冒険空間（内）】	光	暖炉やランプの光と、（中略）とか、ちらりと 目にはいりました
影	【移動空間】	光	ななめに影が はしっていました
境界	【移動空間】	光	長くのびた影と、夢みょうな草原との、はてしない海のうえに
境界	【冒険空間（内）】	光	くつのなかにもとったロウソクのせいと、夕暮れがいつそう暗く思われました。
順光	【冒険空間（内）】	光	ちいさな金色の太陽が三つ、暗闇のなかにうかんでいるのが目にはいりました。
輪郭	【冒険空間（内）】	光	ちいさな金色の太陽が三つ、暗闇のなかにうかんでいるのが目にはいりました。
触れる	【冒険空間（内）】	光	あたたかい陽の光が、肌着をとおして感じられ
上から	【移動空間】	光	緑のなかに陽の光が点々とさしていて、見あげると頭の上は、うつろになっていました。
細かい	【移動空間】	光	緑のなかに陽の光が点々とさしていて、見あげると頭の上は、うつろになっていました。
逆光	【移動空間】	光	アリエッティは、頭をあげて、上の青空を見ました、葉っぱの網目模様を通して、
触れる	【移動空間】	光	髪にあたる陽の光があつく感じられました
影	【移動空間】	光	まだらな影をつくっているところ
上から	【冒険空間（内）】	光	陽もさせば、空気もかよいました
逆光	【冒険空間（内）】	光	入り口のあたりにまだらに陽のすけた影を、投げかけていました。
影	【冒険空間（内）】	光	入り口のあたりにまだらに陽のすけた影を、投げかけていました。
上から	【冒険空間（内）】	光	朝起きたときには、はやくから朝日がさすようになっていました。
輪郭	【移動空間】	光	生垣がぎざぎざのじゅうたんのような影をなげていました。
影	【移動空間】	光	生垣がぎざぎざのじゅうたんのような影をなげていました。
すきま・穴	【移動空間】	光	くらい枝のすきまからは、燃えるような黄金色の光が、刈り入れのおわった切株畑の海のうえに、かがやいているのが見えました
動く	【移動空間】	光	黒と金の異様な交差で、一足ごとに、明暗がうごきました
その他	【移動空間】	光	起伏の多い森のなかでは、光のぐあいがいへん奇妙で、ときどき、アリエッティは、両親の姿を見失ったかとおもいました
影	【移動空間】	光	鳥のような木立のこぼぐらい尾をひく影は見えませんでした。
動く	【冒険空間（内）】	光	火がちらちらすると、しっかりした炎がもえあがりました。
影	【冒険空間（内）】	光	ちいさなくぼみ部屋が、舞台の一場面のようにてらしだされて、奇妙な影が、つぎの間の砂の壁にうつりました
明るさ	【冒険空間（内）】	光	ロウソクの光にひかれて、みんなのいるくぼみ部屋に、まいこんでいたのです。
影	【冒険空間（内）】	光	みんなの影が、あちこち、舞うように、動きまわりました。
動く	【冒険空間（内）】	光	みんなの影が、あちこち、舞うように、動きまわりました。
その他	【冒険空間（内）】	光	まっくろな闇が、うすあかりのなかへ、さっとまいこんできた
上から	【冒険空間（内）】	光	太陽は、洞穴にななめにさしていて、ポッドが入り口のひもとくと、くつのなかにも、さしこんできました。
明るさ	【冒険空間（内）】	光	西日にまぶたをすぼめながら、下をのぞきこみました。
明るさ	【冒険空間（内）】	光	アリエッティはこのしたしみある輝きに、魅せられたように感じました。
その他	【冒険空間（内）】	光	その光は、ごくありきたりなものにまで、めずらしい魔術をほどこしていました。
その他	【冒険空間（内）】	光	なにかあかりをとおすものでないともまると思うわ。
逆光	【冒険空間（内）】	光	なにかあかりをとおすものでないともまると思うわ。
細かい	【冒険空間（内）】	光	くぼみ部屋はきゆうに暗くなって、葉ごしにさす月の光にたちきられて揺れ動く、きれぎれの影がさしくぼみ部屋はきゆうに暗くなって、葉ごしにさす月の光にたちきられて揺れ動く、きれぎれの影がさしくしました
影	【冒険空間（内）】	光	くぼみ部屋はきゆうに暗くなって、葉ごしにさす月の光にたちきられて揺れ動く、きれぎれの影がさしくしました
細かい	【冒険空間（内）】	光	くぼみ部屋はきゆうに暗くなって、葉ごしにさす月の光にたちきられて揺れ動く、きれぎれの影がさしくしました
細かい	【冒険空間（内）】	光	葉はついたりはなれたりして、その間から槍のように矢のように、あかるい光線が躍るようにさしこみまわりました。
上から	【冒険空間（内）】	光	葉はついたりはなれたりして、その間から槍のように矢のように、あかるい光線が躍るようにさしこみまわりました。
その他	【冒険空間（内）】	光	でも、日あたりをむだにすることはないわね。
細かい	【冒険空間（内）】	光	まだらになった薄あかりにめんくらって、ポッドのいったことがわからない
影	【冒険空間（内）】	光	影の中の影のようなもの
逆光	【移動空間】	光	あたりをみて嫌な気がしました。林が、わずかなよわい陽の光もさえぎって、日陰の草はきずついて枯れていました
その他	【移動空間】	光	陽の光がうすれて、風がつよくなってきました。鉛色の風で、それは雪のまえぶれでした。
上から	【移動空間】	光	なぜ光がうえからさすんだらう半開きの天窓からくるといいたい？
動く	【安全圏】	光	アリエッティはあかりのともった戸口と、そのなか動いている人影にじっと目をむけていたのです
すきま・穴	【安全圏】	光	アリエッティはあかりのともった戸口と、そのなか動いている人影にじっと目をむけていたのです
その他	【安全圏】	光	あたたかさ、せいけつさ、ロウソクの光、アリエッティは目くらむようでした
明るさ	【安全圏】	光	闇に目がなれたせいかとおもいましたが、（光は）自分をよんでかがやいているように思われてきました
すきま・穴	【安全圏】	光	かすかなあかりは、腰目板にあいた穴からきいていることがわかりました
反射	【安全圏】	光	食卓を照らしているのは、ただひとつのランプ
すきま・穴	【安全圏】	光	（頭の上の床板を見あげました）そこから、ぼやっとロウソクのあかりがもれていました
離れた	【安全圏】	光	そのとき、ゆく手に、ほのかなあかりが目にはいりました
反射	【安全圏】	光	（あかりは）だいの方にうすぼんやりとうつっている上からってことあるかしら
下から	【安全圏】	光	あかるさは上からきいているのではなく、どこかずっと下のほうからきいていることがわかりました
下から	【安全圏】	光	下のあかりが消えていきました
その他	【安全圏】	光	また外にでられるお日さまがみられる
反射	【冒険空間（内）】	光	果箱の奥のような窓から、日没の最後の淡い反射はいりこんでいました。すっかり夢中になって

上から	【冒険空間（内）】	光	巢箱の奥のような窓から、日没の最後の淡い反射がはいりこんでいました。すっかり夢中になって
細かい	【冒険空間（内）】	光	いきなり二つの、針のさきのような火の光、ゆらぎもせず、死んだようにじっとした
影	【冒険空間（内）】	光	みんなの影が、広大な部屋のはしまで伸びていてあたりいちめんの静寂のなかにおほれそう
上から	【冒険空間（内）】	光	突然、ずっとずっと上のほうに四角くスミレ色の空がみえて
輪郭	【冒険空間（内）】	光	突然、ずっとずっと上のほうに四角くスミレ色の空がみえて
その他	【冒険空間（内）】	光	たった一つの星がかがやいている元気づけられる
反射	【移動空間】	光	大きく口をあいた暗闇のなかにみんなの持っているロウソクの光が反射している
影	【移動空間】	光	アリエッティは、目をあげて、洗い場の天井にうつる、大きな黒い影を見つめました
動く	【移動空間】	光	うごいたり消えたり、ロウソクの、ちらちらするあかりの中で、まるで魔法の力
反射	【移動空間】	光	ロウソクの光が、天井や壁を照らして踊ったりゆれたりしている
動く	【移動空間】	光	ロウソクの光が、天井や壁を照らして踊ったりゆれたりしている
離れた	【移動空間】	光	あかるい夜明けにむかって進んでいるのです
明るさ	【移動空間】	光	ロウソクの光と、とじこめられた暗がりそうしたもののから離れてくさせる
動く	【移動空間】	光	ぬれた天井の上を、黒い影がちらちら動きながらすべっていました
動く	【移動空間】	光	ロウソクからさっと流れたあかりで、真珠色の泡がみえたかと思うと
被さる・包む	【移動空間】	光	香りのよい暗闇につつまれてしまいました
離れた	【移動空間】	光	けしつぶのようなあかりが暗がりのなかにかかっている
順光	【移動空間】	光	（あかりは）まんまるで、ふしぎなくらいじっとしている
輪郭	【移動空間】	光	（あかりは）まんまるで、ふしぎなくらいじっとしている
離れた	【移動空間】	光	真珠にもにた遠い光
輪郭	【移動空間】	光	丸い光は、近づくにつれて、大きくあかるくなっていいって目もくらむように輝いてきました
反射	【移動空間】	光	光がおれまがってそう見えたのだとわかりました
上から	【移動空間】	光	やかんのふたのすきまからつめたい光がさしこんでいて、錆のにおいはいる気なんておこりませんでし
明るさ	【移動空間】	光	目をさますと日はのぼっていて
その他	【移動空間】	光	ふたをはねあげ、雲ひとつない空をながめあげる胸の躍るようなきもち
動く	【移動空間】	光	淡い光が、やかんいっぱいにくるくるまわっているように思われました
満ちる	【移動空間】	光	淡い光が、やかんいっぱいにくるくるまわっているように思われました
順光	【移動空間】	光	だんだんふたが上がって、とうとう頭の上に、あかるい青空が、まるくみえてきた
輪郭	【移動空間】	光	だんだんふたが上がって、とうとう頭の上に、あかるい青空が、まるくみえてきた
動く	【移動空間】	光	屋間の暖かい色合いが静かな光の輝きになってまだ風景のなかに漂っています
その他	【移動空間】	光	のぼってきた月も、くすんだふかい色合いの夕暮れの空もめに入りしました
その他	【移動空間】	光	どこか通り道にちかいところであかりがひらめいたのです
その他	【移動空間】	光	またあかりが光って、ぐるっと輪をかきました
その他	【移動空間】	光	光の輪が、ゆれながら水の上をわたってきたからです
上から	【移動空間】	光	壁のたかいところに空いている二つの屋根窓からうすら寒い光がさしこんでいましたが
反射	【冒険空間（外）】	光	裏の銀色のきらめきは みえませんでした
輪郭	【冒険空間（外）】	光	生垣や道ばたのひょろ長い立ち木の影が落ちていて、ずっとさきまでぎざぎざになってみえました
影	【冒険空間（外）】	光	生垣や道ばたのひょろ長い立ち木の影が落ちていて、ずっとさきまでぎざぎざになってみえました
影	【冒険空間（外）】	光	その長い影は今はまた、だいが長くなっていましたが一まっすぐ三人のほうへのびていました。
反射	【移動空間】	光	ロウソクにも火がともしてあって、まわりをあかるく照らしていました。
反射	【移動空間】	光	こまかいまきが、きゅうに赤々と燃えあがって、（中略）四人の借り暮らしの、思案にくれた顔をてら しました。

舞台空間	志向	心情	言説
【安全圏】	安全志向	安心	奥さんや娘の生活はもっと安全で、台所の下にある居心地のいいすみかに住んで、あそろしい上の上のいろいろな危険から、遠く離れて暮らしていました。
【安全圏】	安全志向	恐怖	奥さんや娘の生活はもっと安全で、台所の下にある居心地のいいすみかに住んで、あそろしい上の上のいろいろな危険から、遠く離れて暮らしていました。
【安全圏】	安全志向	快適	部屋はあかるく、居心地よくみえました。
【安全圏】	安全志向	快適	両親のいる、あたたかい台所にいました。
【安全圏】	冒険志向	憧れ	「そりゃ、」アリエッティは、顔をかがやかしていいました。「おもてで遊んだり、ひなたぼっこしたり（中略）」
【安全圏】	冒険志向	好奇心	「どうやって出られたの？」と、アリエッティが、のりだしてききました。
【安全圏】	冒険志向	切望	わたしもいっしょにいきたいと思ったんですもん。わたしも移住したいと思ったの。
【安全圏】	冒険志向	拒絶	とじこめられてるのが、いやだからよ！
【安全圏】	冒険志向	拒絶	わたしただで住んでいるのって、いいことだとおもわないわ。
【安全圏】	冒険志向	不満	あかりっていえば、ロウソクと、暖炉と、すきまからもれる光だけじゃないの。
【安全圏】	冒険志向	喜び	よろこびに溢れた声で、
【安全圏】	冒険志向	幸福	ボカボカとしたぬくもりにも似た幸福感が、（中略）ひろがっていくように感じました。
【安全圏】	冒険志向	恐怖	あの、おそろしくて、すばらしい、忘れることのできない日。
【安全圏】	葛藤状態	感動	あの、おそろしくて、すばらしい、忘れることのできない日。
【安全圏】	冒険志向	喜び	アリエッティは、こおどりして、「まあ、」と、さげびました、「いってもいいの？」
【安全圏】	安全志向	安心	なんてなつかしい、家庭的な気ぶんなのでしょう。
【安全圏】	安全志向	安心	なんてなつかしい、家庭的な気ぶんなのでしょう。
【安全圏】	葛藤状態	疑問	ところが、にわかに、どこか変わった感じのするのに気が付きました。
【安全圏】	葛藤状態	感動	もし、うちがこれほど暗くなかったら、きっと、たいへんすばらしいことだろう。
【安全圏】	冒険志向	拒絶	いやだ。こんなふうに、いつまでも、いつまでも暮らしてるなんて、暗いところで、床の下
【安全圏】	安全志向	未練	こういうものを失いたくないという思い
【安全圏】	葛藤状態	切望	冒険と安全のまざったもの、それがいちばんほしいんだということがわかりました
【安全圏】	冒険志向	嬉しい	「気を落としてなんかいいわ。」「わたし、うれしくて。」
【安全圏】	冒険志向	期待	アリエッティは、心にうかぶ光景の、あまりのあかるさに、目をとじました。
【安全圏】	冒険志向	不満	なかは洞窟のようにくらく、人の住んでいる気配もなく、ほこりとネズミのにおいがして、がっかりでした。
【安全圏】	安全志向	感動	アリエッティは、その階上の部屋で、さいしょに目にした光景を、けっして忘れることがありませんでした
【安全圏】	安全志向	喜び	ほんとうに夢でもみているようでした
【安全圏】	安全志向	劣等感	だれもかれも、（中略）、きれいにしているので、アリエッティは、きがめいってきて、（中略）、元気がでませんでした
【安全圏】	冒険志向	意欲	見ているうちに、じぶんをよんで輝いているように思われました
【安全圏】	冒険志向	意欲	「いましなかったら、（中略）これからさき、きっと二度とやってみようなんて気にならないんだわ
【安全圏】	冒険志向	不満	人も多すぎるし、どの部屋もくらすぎて、あつすぎるんだと思いました
【安全圏】	葛藤状態	罪悪感	悪い報いがあるかもしれない
【安全圏】	冒険志向	好奇心	これからさき、じぶんのすむ世界になる、この人間のすみかを、たとえわずかでも、知っておきたいと思いました。
【安全圏】	安全志向	喜び	隠れ場所に安全にいるときに感ずる自然なよろこび
【安全圏】	安全志向	安心	隠れ場所に安全にいるときに感ずる自然なよろこび
【安全圏】	冒険志向	切なさ	スピラーの話が出ると、アリエッティは、野外の生活を思い出してしまうのです。
【安全圏】	冒険志向	悲しみ	自然で、のびのびとした、自由な生活、もしかしたら、またと味わえないかもしれないものなのです。
【安全圏】	葛藤状態	絶望	こんど見つけた、木ずりとしっくいあいだの安息の地が、すぐにもまた、あたらしい牢獄になるかもしれないのです
【安全圏】	冒険志向	喜び	「まあ、うれしい…」（中略）「また、そとに出られる」

【安全圏】	冒険志向	安心	「だいじょうぶですって、わかってるわ！」安心と喜びのあまり興奮して（中略）ふりむきました。
【安全圏】	冒険志向	喜び	「だいじょうぶですって、わかってるわ！」安心と喜びのあまり興奮して（中略）ふりむきました。
【安全圏】	冒険志向	喜び	木ずりにはさまれた部屋の、ほこりっぽいもの憂さも、そとの森にひそむ危険の数々も、（中略）みんな忘れてしまいました。
【移動空間】	冒険志向	感動	アリエッティはこのことばをきいたとき、息もとまる思いがしました
【移動空間】	葛藤状態	罪悪感	アリエッティは、なにかやましいと思う気持ちがとれませんでした。
【移動空間】	葛藤状態	疲労	それ以上のかくれ場所をさがすだけの気力ものこってはいませんでした
【移動空間】	葛藤状態	恐怖	地平線は恐れと敬いの念を起こさせました。
【移動空間】	葛藤状態	畏怖	地平線は恐れと敬いの念を起こさせました。
【移動空間】	葛藤状態	空虚	アリエッティは、ふたりのあいだで、ふしぎと、だまったままでいました。
【移動空間】	葛藤状態	罪悪感	悪い報いがあるかもしれない
【移動空間】	冒険志向	意欲	「でもそれはじぶんでやってみなければ、わからないことだわ。」
【移動空間】	葛藤状態	心配	ひどく心配になってきました。
【移動空間】	葛藤状態	心配	もしだれかが、じぶんが下にいるのを知らないで、はしごをひきあげちゃおうとしたら、どうなるんだろう？
【移動空間】	葛藤状態	恐怖	また、すこしこわくなりました
【移動空間】	冒険志向	嬉しい	アリエッティは、声をあげて笑っていました
【移動空間】	冒険志向	楽しい	「魚の骨があるわ」（中略）アリエッティは、うれしそうな調子でつけたしました
【移動空間】	冒険志向	楽しい	アリエッティもまた、ふしぎなくらい楽しい気もちでした。（中略）あかるい夜明けにむかって進んでいるのです
【移動空間】	冒険志向	安心	アリエッティは、下水のことなんか、ちっともこわくありませんでした
【移動空間】	冒険志向	期待	ほこりと、ロウソクの光と、とじこめられた暗がり、そうしたものがた離れて暮らせる生活に、みちびいてくれているのです。
【冒険空間】	冒険志向	感動	ほこらかな気もちが胸にあふれるのを感じました。
【冒険空間】	冒険志向	喜び	うれしい陽の光、（中略）、おそろしいほどの広がり！
【冒険空間】	冒険志向	感動	走るってことは、なんてすばらしいんでしょう
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	ああ、なんというたのしさ！なんというよろこび！
【冒険空間】	葛藤状態	不満	「だけど、わたしと遊んでくれるものないわ」
【冒険空間】	安全志向	恐怖	アリエッティは、ぞっとしました
【冒険空間】	安全志向	恐怖	おそろしさに、頭がくらくらしました
【冒険空間】	葛藤状態	恐怖	どうして、こんなにつめたく、ぞくぞくするのかしら？
【冒険空間】	冒険志向	幸福	うっとりとするようなたのしさでした。
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	うっとりとするようなたのしさでした。
【冒険空間】	冒険志向	興奮	アリエッティは、胸をどきどきいわせながら、小走りに横切りました
【冒険空間】	安全志向	安心	うすぐらいのは平気でした。（中略）かえって安心できました。
【冒険空間】	冒険志向	勇気	勇気を出さなきゃと思いました。
【冒険空間】	冒険志向	憧れ	長いこと、あこがれていたものだわ、こころに描いていたもの
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	ゆったりと楽しい気分で
【冒険空間】	冒険志向	疑問	床の下の暗闇に人しれず住んでいることのほうが、ほんとうにいいものなのだろうか？
【冒険空間】	冒険志向	意欲	よかれあしかれ、ここまできたんだわ。もう、どうしたって、あとにはひけないのよ！
【冒険空間】	冒険志向	安心	とつぜん、ぜったいに安全だということをさとりしました。
【冒険空間】	冒険志向	感動	これこそ、アリエッティが、永久に見ることができなかったかもしれないものなのです！
【冒険空間】	冒険志向	感動	アリエッティは、たいへんきれいだと思い、ふしぎなほど気もちがはずんできました。
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	アリエッティは、たいへんきれいだと思い、ふしぎなほど気もちがはずんできました。
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	流れる水のおもてをとおして、下のふかみのほうを、たのしそうにながめていました。
【冒険空間】	葛藤状態	退屈	道中は退屈でした
【冒険空間】	冒険志向	喜び	ひとあびして元気がでていたので、木のぼりができて、大よろこびでした。
【冒険空間】	冒険志向	親しみ	アリエッティは、この親しみある輝きに、魅せられたように感じました。
【冒険空間】	冒険志向	感動	アリエッティは、この親しみある輝きに、魅せられたように感じました。

【冒険空間】	冒険志向	満足	「どんな困難があっても、やっぱりきてよかったわ！」
【冒険空間】	冒険志向	意欲	「暗闇の生活にもどるわけには、いかないんですもの」
【冒険空間】	冒険志向	感動	「とてもすてき」
【冒険空間】	冒険志向	不思議	神秘と華美が心たのしくとけあっています（すくなくとも、アリエッティには、そう思われるのです）
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	神秘と華美が心たのしくとけあっています（すくなくとも、アリエッティには、そう思われるのです）
【冒険空間】	冒険志向	困惑	アリエッティは心の底からめんくらって、口さきでつぶやきました
【冒険空間】	冒険志向	幸福	こうした自由というものが、台所の床下で少女時代をおくったものに対して、どれほどの意味をもつものなのか、想像もつかなかったのです。
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	くぼみ部屋のなかに、にわかにたのしい気分がみちてきました
【冒険空間】	冒険志向	満足	アリエッティは、あいそよくつけたしました。「きれいだよ。」
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	アリエッティは、すこし薄情なくらい、トボガンすべりをたのしんでいました
【冒険空間】	冒険志向	退屈	うすぐらいなかで横になっていると、時がたつのがおそく、まいにちがひどくたいくつでし
【冒険空間】	冒険志向	疑問	ふしぎに思いました、なぜ光がうえからさすんだろう
【冒険空間】	冒険志向	恐怖	すこし身震いしましたが、好奇心のあまり勇気をふるいおこして、（中略）まっすぐに立ちました。
【冒険空間】	冒険志向	好奇心	すこし身震いしましたが、好奇心のあまり勇気をふるいおこして、（中略）まっすぐに立ちました。
【冒険空間】	冒険志向	勇気	すこし身震いしましたが、好奇心のあまり勇気をふるいおこして、（中略）まっすぐに立ちました。
【冒険空間】	冒険志向	恐怖	アリエッティは、凍りついたように動かなくなりましたが、それでも、勇敢に、ふみとどまっていました。
【冒険空間】	冒険志向	勇気	アリエッティは、凍りついたように動かなくなりましたが、それでも、勇敢に、ふみとどまっていました。
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	アリエッティとちいさなこたちは、すっかり夢中になって、いすの足の暗がりや、出たり、はいったり走りまわって
【冒険空間】	冒険志向	好奇心	好奇心に胸をふくらませて、（中略）すみからすみまで見たくてしかたがなかったのです
【冒険空間】	冒険志向	意欲	アリエッティは、どうしてか、元気づけられるような思がしました
【冒険空間】	冒険志向	喜び	まへの、暗い、ほこりっぽい生活の名ごりが、すっかり洗い流されてしまったかのよう
【冒険空間】	冒険志向	喜び	ふたをはねあげ、雲一つない空を眺めあげるといことは、胸のおどるような気持ちでし
【冒険空間】	冒険志向	幸福	アリエッティは、このうえなく幸福でした。
【冒険空間】	冒険志向	憧れ	じぶんを、あんなに強く人間のほうへ引っ張っていく、このあこがれみたいなものはなんなんだろう？
【冒険空間】	冒険志向	楽しい	はじめの何日かというのは、なんとすばらしく楽しかったことでしょう！
【冒険空間】	冒険志向	満足	これほど完全な安住の地は、とても見つけだせなかっただろうということは、アリエッティには、胸がいたくなるほどわかっていました
【冒険空間】	葛藤状態	悩み	「あーあ、」と、アリエッティは、みじめな思いで、ひそひそ声を高めました。「いったいどうしたらいいのかしら」
【冒険空間】	冒険志向	感動	アリエッティには、そのとき、まるでほんとうとは思えなかったのですが、いまになっても、まだほんとうのような気がしないのです
【冒険空間】	冒険志向	感動	気球の旅は、まるで夢をみているようでした
【冒険空間】	冒険志向	喜び	アリエッティは、太陽のほうへ顔をむけて、きゅうにまたよみがえってきたあたたかさのなかで、日なたぼっこのできるのを、ありがたいとおもいました。
【冒険空間】	安全志向	安心	きゅうになにか、あたたかい家庭的なものの漂っているのがかんじられました。

舞台空間	言説
【安全圏】	大時計のしたの穴
【安全圏】	木戸には（中略）複雑な止め金
【安全圏】	れんがづくりの家の壁に、鉄格子が一つはまっていて、それが、上の台所の床からすぐ下のところだったので、アリエッティは、その窓越しに庭を見ることができました。
【安全圏】	床板のしたのほこりっぽい廊下
【安全圏】	見るものは、ほこりと廊下だけ
【安全圏】	あかりっていえば、暖炉とすきまからもれる光だけ
【安全圏】	なかは洞窟のようにくらく、人のすんでいる気配もなく、
【安全圏】	アリエッティは、その家具が多すぎる部屋を見まわしました
【安全圏】	はじめてみるあたらしいすみかは、まっくらでした。（ファープンク邸の床下とおなじくらいの暗さ）
【安全圏】	この台のうえ、暗い影のなかの高いところに、ちいさな部屋が二つあって
【安全圏】	天井というものは、まるでなく、どこかずっと上のほうから、きみのわるいあかりがさしていました
【安全圏】	壁がおちているみたいだな、さもなきや、床板がちちんだか（中略）さきへいくと、もっとひろくなってるんだ
【安全圏】	ほこりと、ロウソクの光と、とじこめられた暗がり
【移動空間】	暗くてほこりっぽい廊下が、何メートルかつづいていて、そのとちゅうには、ねだの間に木の扉があり、ところどころに、ネズミよけの金の木戸がつけてありました。
【移動空間】	入りくんだ通路
【移動空間】	（時計の下の方）あがるに、段が三段あるんだ
【移動空間】	段は高く、すこしゆがんでいました
【移動空間】	ぎざぎざした穴のふち
【移動空間】	長い草をおしわけて
【移動空間】	枯葉と（中略）実、されが、腰の高さまでつきかさなっていて、泳ぐようにして通らなければなりません
【移動空間】	表面のたいらな、溶岩色の地面
【移動空間】	はしごの横木の一段一段が、はるか頭のうえのうすくらがりのなかに、そそりたっている
【移動空間】	うすあかりのさす踊り場の段のうえ
【移動空間】	空中の棧橋といったようなところでしたが、（中略）ちょっときしんでゆらゆらするかとおもうほどでした。
【移動空間】	ほこりっぽい廊下のかわりに、はしご段がある。そして、アリエッティは、あの踊り場の段が、もとの格子窓のかわりになればいいなと思いました
【移動空間】	はしごのてっぺんが、あかりのなかにうかびあがっていて、高い踊り場のへりがぎざぎざになってみえました
【移動空間】	ゴシック型にあいた抜け穴
【移動空間】	下水の口は、たいへんふかく暗く、井戸のように、床の面からひくくおちこんでいました
【移動空間】	鉄格子は（中略）すりへったセメントのわくのなかに、ゆるくはまっている
【移動空間】	頭の上の、丸トネルの天井は、ロウソクの光で、ぬれたようにひかっていた
【移動空間】	つやつやした表面
【移動空間】	さきの下水は、ややくだり勾配になっていて
【移動空間】	さきへ進むにしたがって、ほかにもいくつか口があいていました。
【移動空間】	暗闇のなかへ枝わかれしてって、上り勾配で遠ざかっていく下水です
【移動空間】	ときどおり、小枝にいきあうことがありました、その場にしっかりとつきささっているの、よけて通るのは容易ではありませんでした
【移動空間】	まるい壁のつらなる、はてしない単調な眺めでした
【移動空間】	規則ただしい間隔をおいて、弓型に厚くふくらんだところがありました
【冒険空間】	広間の床にすうた、白っぽい石
【冒険空間】	頭のうえの大きな箱
【冒険空間】	金色の石の床
【冒険空間】	上やまわりのおそろしいほどのひろがり
【冒険空間】	じゃりをした小道
【冒険空間】	色のついた石がいっぱい
【冒険空間】	小道をこすと草ぶかいきゅうな土手があって、上は、しげたいけがきになっていました
【冒険空間】	入り口の段は、あたたかでしたが、たいへんきゅうでした
【冒険空間】	「あの道までおりたら、」「きつと、あがってこれないわ。」
【冒険空間】	「わたしの格子窓が、ちょっと角をまがったところにあるにちがいない」
【冒険空間】	大平原のような床
【冒険空間】	（格子窓は）地面にごく近く、家の古い土台にしっかりとめこまれていて、その下のあたりには、緑のしみがひろがったようにコケがはえていました。
【冒険空間】	天井は、はるか高く、くらい上のほうへ遠ざかっていて、まわりじゅうががらんとしていました
【冒険空間】	床板のほうは、なめらかで、ミツロウのおいがしていました
【冒険空間】	テーブルの下が、まっくらな大きな洞穴のようになっていて
【冒険空間】	上のあかりのついたうつろな空間
【冒険空間】	頭上高く、も一つ天井がありました
【冒険空間】	よく見とおしがききました
【冒険空間】	よく見えるということは、また、見られやすいということでもありました
【冒険空間】	よくふまれた小道
【冒険空間】	道のよこのしげみの、くらい奥のほうに目をやりました
【冒険空間】	道は、牧場を二つ通りこして、片側はゆるいのぼり斜面になっていました
【冒険空間】	ハシバミの生垣のむこうの、麦畑のかなたには、森がありました

【冒険空間】	みんなのまえは、いったんちょっとさがってから、ひろい、登り斜面の野原になっていて
【冒険空間】	かたむいた地平線
【冒険空間】	下り坂をすこし、生垣のほうへむかっていって、丈の高い草のジャングルをぬけだすと、あさいみぞにでました
【冒険空間】	みじかい草のあいだに、あたたかい土があって
【冒険空間】	土手をのぼりました、ゆったりとしたのしい気分で
【冒険空間】	(野原は、) あいかわらずひろく、あいかわらずみょうにかたむいていました
【冒険空間】	ひらけた場所をこわがる
【冒険空間】	見あげると頭のうへは、うつろになっていました
【冒険空間】	上へ上へと、見えるかぎり、いく層もいく階もの緑の部屋で、そこへ、あっちこっちからつきでた枝がわたっています
【冒険空間】	川沿いに、丘のうえまではのぼりだ、そっから横へいく、これもたいたらだ、それから、さいごんどこ、木戸までもどるとこな、これはずっとくんだりだ
【冒険空間】	みぞは、あさくて、排水がよくて、かなり人目からかくされている
【冒険空間】	川は、ふたりがついてみると、流れというよりも、ちいさく澄んだ池のように思われました
【冒険空間】	以前には生垣の一部になっていた、大きなカシの木が、根元からぎられて、そのがっしりした丸い切株がかきねのうすくなったあたりの土手の上に、のこっているのです
【冒険空間】	あちこちから、ぼんさいのカシの木のような若木をふいていましたが、その一本が、ちょうど、その洞穴のうえからかぶさっていて
【冒険空間】	ありあまるほどの空き家がある
【冒険空間】	みんながなじょうにできていて、屋根もしっかりつけてあり、きちんと基礎をすえてあるので、どんな好奇心のつよい人間でも、不注意にこじあけたり、(中略) できないのです
【冒険空間】	ひろくて、しんとしていて
【冒険空間】	大寺院ほどの高さと、みんなにはおもわれました
【冒険空間】	昼は太陽がかがやき、夜は月の光にてらされる生活
【冒険空間】	下水の口は、川岸のずっと奥にひらいていて、イグサや芝草をあたまにいただいた土手が、上からおおいかぶさるようになっていました
【冒険空間】	(流木の巢のなか) 光と影できりだされた、この奇妙なうつろのなかには、手をかけるところも、足をおくきざみも、いくらでもありました
【冒険空間】	頭の上には、たくさんの枝が、網目のようにまじわりあっている